

平成23年度

教育に関する事務の管理及び執行状況  
の点検・評価に関する報告書  
(平成22年度対象)

平成24年3月

都城市教育委員会

# 平成23年度「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価」の方法等について

都城市教育委員会

## 1 自己点検・評価の考え方

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(以下「法」という。)の改正に伴い、平成20年度から教育委員会の権限に属する事務の全般において、その管理・執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出及び公表することが義務づけられました。

都城市教育委員会としては、これまでも本市の教育の発展のためにさまざまな事業に着手し、その結果等を踏まえて改革に取り組んできたところです。

政策効果を把握し、必要性、効率性等の観点から自ら評価を行い、その結果を公表することは、政策立案を的確に行うと共に、住民に対する説明責任を果たす上で、重要なことです。そのような観点から、法の規定に基づき具体的な内容の点検・評価を行い、公表するものです。

## 2 具体的な点検・評価の方法

項目	点検・評価方法
その1 教育委員会の活動状況 (1) 教育委員会の会議の運営等 (2) その他教育委員の活動	平成22年度の教育委員会の会議の運営等及びその他教育委員の活動状況実績に対する全体的な点検・評価を行う。
その2 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	事務事業(平成22年度～平成24年度)の事前評価により採択され、かつ、平成22年度当初予算に計上された事務事業に対する実績、評価及び課題等を行い、その達成度を基準に5段階評価とします。 評価5 達成度100% 評価4 達成度概ね80% 評価3 達成度概ね60% 評価2 達成度概ね40% 評価1 達成度20%未満

## 3 外部評価の方法

「都城市教育委員会外部評価委員設置規程」に基づき、外部評価委員2名を委嘱し、上記の点検・評価の結果について意見を求めるものです。

## 4 公表

最終的には、「平成23年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価に関する報告書(平成22年度対象)」としてまとめ、市議会議員全員に配付するとともに、市のホームページで公表するものです。

# 平成22年度 都城市教育委員会の自己点検・評価シート その1

## 1 教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員会の会議の運営等

都城市教育委員会における会議は、毎月1回の定例会のほか、必要がある場合には臨時会を開催し、教育委員会の決定を要する議案について審議を行うとともに、重要事項について事務局及び教育機関が報告等を行っている。事前に教育委員に会議資料を配付し、各委員が十分に内容把握の上、委員会での検討を行った。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項の規定に基づき、平成22年度は、教育委員会の開催日を事前に市のホームページで公表した。さらに、都城市教育委員会会議及び選挙等に関する規則第13条及び第14条の規定に基づき、平成22年度は、市のホームページで定例会及び臨時会毎の会議録の公表を行った。

平成22年度の教育委員会会議の開催状況は、次のとおりである。(教育委員会の付議事件名表は、別紙資料のとおり)

回	(1)開催日 (2)会場 (3)付議案件数 (4)傍聴人数	教育長報告	教育長報告及び付議案件に関する主な教育委員の意見
1	(1)平成22年 4月8日(木) (2)都城島津邸2階交流室 (3)報告14件、議案3件 (4)0人	教育長報告 ○教職員の異動について ・3月6日の内申を経て市内で97名の新々気鋭の教職員が新採用され、112名の教職員が異動となった。人材をどう生かしていくか、適材適所、公平の観点からの選考であったが、各校のすばらしい柱となって欲しいと願っている。 ・教育委員会も人事異動があり、島津邸が新設され13課・館の新体制でスタートしたところである。後日教育部長と各課等を視察したいと考えている。 ・校長も明道小校長を会長として新体制でスムーズなスタートをしたところである。 ・教育長着任にあたって教育長としての教育への思いや基本的	・都城市教育委員会懲戒処分の指針及び都城市教育委員会事務局職員の懲戒処分等の公表に関する指針の制定については、事細やかな懲戒処分の指針であり、これにより確固とした形で職員の規律が保たれることができると考えます。 ・スクールアシスタントは、いくつかの学校を兼務して生徒の相談に対応した方が良いのではないだろうか。 ・宿泊を伴う校外活動にボランティアを同行させることに関する規定の一部を改正する告示の制定については、保護者が遠方において支援する場合、少なからず負担軽減を図る施策も必要ではないでしょうか。 この規程は、保護者及び三親等以内の親族には実費を支払うが、謝

	<p>な考え方を伝えたが、新採用教職員にもこれからの教職員に期待する話をしたところである。700名から800名もの志願者の中から採用された優秀な方々であるが、中には11回目の挑戦で採用された方もいる。口にしと書いて「叶う」という字があるが、その字のとおり度重なる挑戦で夢を叶えた方々である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導については様々な機会に話をしているが、胸を張って堂々と生きている子どももいるが、中には自己コントロールができず問題行動を起こす子どももおお、不登校が3月になって増えてきている。非行行動児童・生徒の報告が、平成20年度は20件、平成21年度は29件となっている。喫煙、万引き、暴力、夜間徘徊、性非行等の非行の「外なる行動」に対処するには、子どもたちの現実を知る「内なる心」をつかみ取るプロ意識が必要である。子どもの将来を願う各家庭に足を運ぶ等粘り強い対応をされている教職員もいる。</li> <li>・ニーズが多様化している現代であるが、問題行動を引き起こしている子どもも心を変え、学力向上の土台を築くためにプロ意識を持って生徒指導に当たっていただきたいと期待している。</li> </ul>	<p>金については支払わないということで、ボランティアにはどちらも支払うということですが、保護者等に実費が支払われるということが追加になったことは前進ではないかと思えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学生選考基準が制定されることは、透明性が図られ大変良いことだと思います。</li> <li>・図書館の冷房が利きすぎるので、高齢者等にも配慮して気温の調整をお願いしたい。</li> <li>・都城島津邸の駐車場が朝市を開催するとか、友の会を作るとか、小学校、中学校の遠足にも利用してもらおうこと等を検討されたらリピーターも増えるのではないのでしょうか。</li> <li>・来館者が飲料水を欲しがると思いますが、熱くなる頃までには検討されたらいかがでしょうか。</li> </ul>
<p>2 (1)平成22年 5月10日(月) (2)市役所南別館3階 委員会室 (3)報告6件、議案8件 (4)0人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口蹄疫による畜産農家等の子どもへの風評被害はあつてはならないことで、口蹄疫の実態についてしっかりと全児童生徒に説明し理解させることが大切なことだと考えている。</li> <li>・学校の生徒指導については、4月は22校から不登校等の相談を受けているが、各学校長と膝を交えて真剣に協議しアドイス等を行っている。</li> <li>・おかげ祭りの半纏合わせの際に、人力車を引く生涯学習課の職員が参加していたが、この積極的なイベントへの参加につ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生の解決には時間のかかる問題と思いますが、じっくりと真剣に対応していただきたいと考えます。</li> <li>・都城市民大講義の内容が、個人の趣味だけでなく知識の吸収が大切だと思えます。例えば今問題になっている地球の環境問題等が良いのではないかと思います。</li> <li>PTA等若い人にも案内をお願いします。</li> <li>・特別展「国立美術館巡回展」については、入場料が一般800円と安いですね。</li> </ul>

		<p>いては敬服したところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月12日から4月22日まで各総合支所の職場訪問をしたところであるが、順調にスタートしたところである。学校給食についても順調にスタートしたところである。</li> </ul>	<p>ピカソの絵画も出品されたい。学校関係にも広報活動を活発にしていきたい。</p>
3	<p>(1)平成22年 5月28日(金) (2)市役所南別館3階 委員会室 (3)報告4件、議案8件 (4)0人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口蹄疫の対応については、5月18日の県の非常事態宣言を受け、5月19日に臨時教育委員会を開催した後、当日臨時校長会を開催した。臨時校長会では、遠足や修学旅行の自粛、延期をお願いしたところである。高城中では、5月23日から沖繩への修学旅行を計画していたが、延期していただいた。これに伴うキャンセル料は教育部長、担当課長が市当局と協議した結果、市が負担することとなった。また、高校総体県予選では都城市がバレーの開催会場となっていたが、他市に変更となった。五十市中の運動会は延期となったが、中学生という時期は反応やその取扱いにデリケートな部分があるが、教員が熱心に説明をすることによって生徒の理解を得られスムーズに事が進んだ。高崎町麓小では、児童が農家に励ましの手紙を届けることとなった。</li> <li>このような都城市の口蹄疫に対する防疫体制のすばらしさに、さすががしさを感ずるところである。今後も対応に2・3ヶ月かかるのではないかと思うが、気を引き締めて対応する必要があると考える。</li> <li>・5月24日にエキスパートティーチャーの第1回連絡協議会が開催された。平成21年度は9名であったが140名の先生が講習会に参加し、その目的が達成されたと考えている。平成22年度は3名増の12名としたが、生活科、音楽科、技術科を加えたものになっており、先生の幅広い知識の習得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島津邸の駐車場の案内より島津邸の案内標識、とくに市役所から島津邸への案内標識が必要だと思います。</li> <li>観光協会の調査では観光客は増えており、先日は観光協会の職員が張り付いて観光案内をしたところ。都城駅前には島津邸の紹介観光マップを置くべきではないでしょうか。また、天皇家からいただいた大切な木が切られています。木が元気な時や贈呈された時の写真の展示はできないのですか。</li> <li>観光協会や有識者から島津邸でお茶をゆつくり飲む場所を検討して欲しいという要望があります。</li> <li>・口蹄疫の対応として、民間で開催する行事はどの程度規制できるのですか。通常の営業を行っているショッピングセンター等と自粛している団体との整合性が取れていないという指摘もあります。</li> <li>・教育基本方針は解りやすく整理されていると思います。</li> <li>・成人式開催要項の2.⑧に「地区別開催方式については、今年度、意見を聞く会（仮称）等を開催し、意見の集約と評価を行いたい」とありますが、評価については、平成23年1月の成人式に反映できるのですか。⇒回答（本年度検討し、平成24年1月の成人式から反映させたいと考えています。）</li> <li>・成人式開催要項の2.②にある、地域の特色を生かすことは難しいのではないですか。同窓会的な雰囲気で行われるため実行委員には困難な作業と思われれます。</li> <li>・成人式は全員が参加できる日程を設定できるように検討していただ</li> </ul>

	<p>の機会が増えたことは喜ばしいことと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月25日に学校図書館サポーターに辞令を交付したが、140名の応募があり、面接等を経て7名の方が採用され。子どもの読書意欲を向上させるための図書館の環境整備やみ聞かせ等の読書活動の推進等が主な業務であるが、各校長から採用された7名の方がハイレベルであるとの称賛を聞いており、読書活動で文部科学大臣賞を受賞した高崎小の校長も絶賛しており今後の活動に大いに期待をしているところである。次年度以降も継続することとしている。</li> </ul>	<p>きたいと思えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姫城地区公民館での成人式は、式典とアトラクションの両方が良く意義のあるものでした。実行委員と帰郷した成人者の意識のずれについては、地区に任せられた方が良いと思います。</li> <li>・公民館長からも中学校の体育館での成人式開催は中学生の協力を得られ、地区での開催の意義があるとの話を聞いています。</li> </ul>
<p>4 (1)平成22年 7月12日(月) (2)市役所南別館3階 委員会室 (3)報告9件、議案13件 (4)0人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月2日の口蹄疫による都城地域の移動制限区域等の解除により、7月3日から条件付きではあるが高崎地区を除いて、教育施設の開放をしたところである。中体連の開催については口蹄疫の影響で1ヶ月延長し、7月3日から条件付きの開催となった。都城市・三股町の中学校校長会、PTA連絡協議会及び地区中体連の代表と教育委員会で協議した結果、保護者の応援は禁止し、各都毎に保護者でカメラ撮影者1名とビデオ撮影者1名の計2名の参加のみ認めるということになった。我が子の晴れ舞台を見たいという保護者の理解を得るためにはどのようなようにしたらよいかということを中心に協議した。その中で、保護者が自分たちでの防疫は不可能であることや全市、全県を挙げての防疫活動であることなどから、この参加条件に協力するべきとの結論に至った。</li> <li>三股町武道館で開催された剣道競技を視察したが、保護者も参加条件を理解し、子どもたちも毅然とした姿で試合に臨んでいた。いつもと異なる大歓声のない雰囲気は心残りであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中体連の参加者限定の保護者への説明については、教育委員会で大変なご苦労をされていることと思えます。</li> <li>・平成23年度使用小学校用教科用図書は、以前の教科書より大きく見やすくなり、写真、絵も多くなり解りやすくなっています。教える側の先生の他国に対する考え方を示す必要があると思います。一方通行では不十分で、他国の考え方も理解させる必要があると思います。</li> <li>国語は大切に全ての基本となるものです。小学校1年から6年は全2冊となつていますが、1年生に2冊というのは量が多いのではないのですか。</li> <li>・平成22年度就学援助費却下通知への異議申立てに関して、このように個人情報扱い、書面に記述しなければならぬ苦勞を考えると、今後援助申請に関わる民生委員の希望者は減るのではないのでしょうか。</li> <li>・都城市体育指導委員の委嘱に関して、特定のスポーツだけでなく色々なスポーツを行い、体づくりをして欲しいと考えています。</li> </ul>

た。今後無事に口蹄疫が終息することを願うばかりである。

- ・全県で口蹄疫の非常事態宣言が出された状況下において、教育活動の中で子どもたちが命の大切さや他者への思いやり育んだ様子が見られた。募金活動をはじめ農家へ励ましの手紙や千羽鶴を送ったり、明道小の児童が口蹄疫に負けないことを市民にアピールする看板を設置するなど多くの励まし活動が見受けられた。学校の道徳教育に感動したところであるが、学校で今後どのような取り組みをしているか調査をする予定であり、取りまとめで今後の教育委員会で報告することになっている。

- ・平成 23 年度から 4 年間使用する小学校用教科用図書の採択協議会が 6 月 1 日と 7 月 8 日の 2 回開催された。各教科毎の専門委員が研究を重ねて 7 月 8 日の協議会で選定結果を出したところである。本日の教育委員会で決定していただきたい。
- ・7 月 2 日に 1 学期が終了するが、生徒指導における教育相談員への相談件数は 111 件であった。子ども本人からの相談が 50 件、先生からの相談が 50 件であり、その他保護者等から相談があった。相談する場があることは子どもたちの心のよりどころとなり、今後さらに教育相談活動の充実を図っていきたい。

<p>5 (1)平成 22 年 8 月 4 日(水) (2)市役所南別館 3 階 委員会室 (3)報告 1 件、議案 6 件 (4)0 人</p>	<p>・ 口蹄疫の状況について 昨日の部課長会で「口蹄疫から子どもたちが学んだこと」の内容で講話をした。各学校に口蹄疫の発生に伴う学校での教育活動に係る調査を行った。その結果、全ての学校で口蹄疫について児童・生徒に説明の機会を持ったという回答だ。また、口蹄疫の発生が与えた影響や教育の機会として生かした結果で見られた児童・生徒の変容等について調査を行った。これまでも生きる力、確かな学力、豊かな心、たくましい体力と健康を育むという基本方針を基に教育活動を行ってきたが、口蹄疫の影響で子どもたちが得たものは大きな財産と感じている。</p> <p>・ 学力調査の結果について この度、平成 19 年度から平成 21 年度の 3 ケ年に行われた全国学力テストの結果を文部科学省がまとめた。その中で気になったことは、子どもたちの学力と学習習慣、生活習慣との相関関係が高いということである。具体的に、ノートを丁寧に書く、よく読書をする、携帯電話の使用ルールを守る、朝食をしっかりと食べる、家族と学校のことについて会話をする等の子どもたちの学力は向上しているという結果が出た。今後、各学校にこのことを伝え、指導することによって、市の子どもたちのさらなる学力向上を図りたい。</p> <p>・ 小学校の水泳教室の見学について 今回、上長飯小、東小、川東小の水泳教室を見学したが、真剣にがんばっている先生、子どもたちの姿を見てうれしさを感じた。今後も別の学校を訪問したいと考えている。</p> <p>・ 生徒指導について</p>	<p>・ 子どもフェスティバル開催場所が、昨年までのウエルネス交流プラザからコミュニティセンターに変更になりましたが、ウエルネス交流プラザは、人が集まり話題性の高い会場であり、お化け屋敷等に人気が高かったもので、変更が可能であればウエルネス交流プラザを会場にしていきたい。</p> <p>税務署が今後継続してウエルネス交流プラザを利用するとしたら、開催時期の変更が可能であれば検討していただきたい。</p> <p>子どもフェスティバルを街中で開催するとすれば、会場周辺の病院及び神社等の駐車場利用も必要ではありませんか。</p> <p>・ 私立幼稚園ではありませんが、公立幼稚園では規則があれば退園処理もできると思いますが。保護者の考え方は多様化しており、対応は難しくなっていると思います。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>(1)平成 22 年 8 月 24 日(火) (2)市役所南別館 3 階 委員会室 (3)報告 2 件、議案 6 件 (4)0 人 ※会議終了後、教育委員 と教育委員会全課・館長 との意見交換会を実施 した。</p>	<p>生徒指導について 1 学期分を取りまとめ、次回の教育委員 会で報告したいと考えている。</p> <p>・授業力向上セミナーについて 子どもたちの人間力を養うためには、教師の授業力向上が不 可欠で教師の生命線となっており、国の施策にも盛り込ま れている。8 月 4 日中央公民館で都城市授業力向上セミナー が開催され、150 名の先生方が参加し、午前中は田中先生 の講話、午後はエキスパートティチャーの研修が行われ た。2 学期の成果に期待しているところである。 ・新学習指導要領について 新学習指導要領についてのワークショップが高城高校で開 かれ、小学校 285 名、中学校 191 名の先生方が参加され た。指導の内容が、小学校は平成 23 年度から、中学校は平 成 24 年度から変更になる。物から知識への関心が高まっ ており、子どもたちの生きる力を養うためにどのような指導内 容・方法が必要なのか検討していきたい。</p> <p>・生徒指導のまとめについて 不登校児童・生徒については、この時期で 30 日以下のもの が平成 21 年度は中学生 80 名、平成 22 年度は 90 名とな っている。 非行児童・生徒については、この時期で平成 21 年度が 7 件、 平成 22 年度が 16 件と増えており、その内小学生が 9 件と なっている。 不審者事案が、この時期で平成 21 年度が 11 件、平成 22</p>	<p>・平成 19 年度から教育委員会会議の事前協議が開始され、その時は 教育委員への定例教育委員会資料の事前配付はありませんでした。 現在の事前協議を行わず、資料の事前配付方式が合理的だと思いま す。</p> <p>・子ども自身が、全国学力調査での自分のレベルを知ることが必要で はないでしょうか。 親が子どもたちをどのように育てよう、どんな大人にしたいと考 えているのか聞いてみるのも良いと思います。その親に学力調査結果 を伝えることは必要ではないでしょうか。 学力を向上させるために、学校図書サポーターを活用して読書の素 晴らしさを教えるなどの能力活用が必要だと思います。また、教育 長が話されたように先生方が教師力や授業力を高める毎日の取組 みが重要だと思います。各学校で、簡単に取組めるものを検討して いくことが重要だと考えます。</p> <p>同学年に 1 クラスの小規模校では同じクラス編成で持ち上がるた め、学級担任は児童の学力の推移の把握ができますが、同学年に複 数のクラスがある大規模校では、同じクラス編成で持ち上がるこ とができないため学力の推移の把握は困難だと思います。 保護者に都城市における全国学力・学習状況調査報告の資料を配付 したかどうか。小学校 6 年生と中学校 3 年生は全国学力 調査を受けますが、次学年の保護者に宅習等の課題設定を行うこと も必要だと思います。平均点が解れば危機感を持って図書館へ行く</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>年度が10件となっており、2学期には対策を検討して備えたい。</p>	<p>と思います。 学力調査結果を趣旨に反しない範囲で有効に活用することが重要だと思います。</p>
7	<p>(1)平成22年 10月6日(水) (2)市役所南別館3階 委員会室 (3)報告6件、議案3件 (4)0人</p>	<p>(1)給食費の未納問題について 給食費の未納者には2つの要因があり、払いたいが払えない保護者と払う意思のない保護者に分けられる。払えない保護者には就学援助の制度があるが、払う意思のない保護者をどう取り扱うかが問題となる。過去3年間の未納額は、平成19年度が420万円、20年度が352万円、21年度が423万円となっている。公平性の観点から、校長、教頭、PTA会長等が支払い督促をしているが、過去3年間の未納回収率は、平成19年度が13件、回収率87%、20年度が28件、76%、21年度が19件、回収率39%となっている。子ども手当から直接差し引くことは、受給権の観点からできない状況であり、窓口での現金徴収をするしかない。 国は、子ども手当の制度について検討するとしており、今後状況が変わる可能性がある。平成20年度の全国の給食費未納額は、22億円にものぼっており、本市にとっても大きな課題である。 (2)企業から本市への寄贈について いろいろは出版から本市の小学校6年、中学校1年から3年、高校生、教職員の全員に本が寄贈された。10月4日姫城中で贈呈式が開催されたが、「中学生の夢」、「高校生の夢」、「先」と題したもので、2,550万円相当になり、子どもたちが</p>	<p>・給食費の未納問題についてですが、口座請求では引落せず、PTA役員が自宅を回ると支払う保護者もいると思います。プライバシーの問題もあり、PTA役員も徴収のために家庭を回りたくないと思います。口座請求の学校が多いのですか。 【教育長の回答】 口座請求の学校が多く、それが未納につながっていることもあり、未納の徴収活動はPTAの活動ですが、給食費に対する考え方に変化を見せている保護者も多いと感じています。倫理感の問題であり、歯止めがかからない状況です。宮崎市では、学校長が給食費の会計責任を1人で担当していましたが、本市は教育委員会と協力して行っていることは、すばらしいと思います。 公平性の点から未納は放置できないものであり、システムを充実させる必要があると考えます。</p>

	<p>成長するための大切な贈り物であると感謝している。</p> <p>また、9月22日、イオン財団より山田中学校に太陽光発電システムが贈呈された。1千万円以上のもので、県内で1校のみの寄贈であった。さらに、9月3日、富崎ガス(株)より、東小、大王小、小松原中に、282万円相当のガス器具が寄贈された。家庭科室の環境改善につながり、有効活用を図っていくことが大切だと考えている。</p> <p>(3)地域の教育力について</p> <p>多様な教育環境の中で、地域の教育力が減少していると感じている。その中で、8月29日に石山花相撲を見学に行っている。化粧まわしを身につけた子どもたちが、皆から見られているという状況の中ではつらつと相撲を取っている姿を見て、主役の教育効果を感じた。このような伝統行事は、教育の観点からも応援するべきだと感じた。</p> <p>9月26日に、4・5年前に解団していたボーイスカウトの結団式に参加した。それまでは、ガールスカウトのみであったが、この体験は人、物、自然とのかかわりを通じて子どもたちを成長させてくれると考える。</p>	
<p>8</p> <p>(1)平成22年 11月9日(火)</p> <p>(2)市役所南別館3階 委員会室</p> <p>(3)報告4件、議案2件</p> <p>(4)0人</p>	<p>(1)学校訪問について</p> <p>これまでに全学校の訪問を終了したところである。その中で、各校長の学校運営、人事についての意見や思いを聴く機会を持った。今までは、校長会で私から一方的に思いを示したが、この学校訪問で各学校の成果や課題について、直接校長から聴き取ることができたことは大きな成果であった。今年には各学校1回の訪問を実施したが、来年は経営ビジョンを</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと教育を行うに当たって、地域の特色を教育するための社会科副読本を有効活用することが重要だと思えます。社会科副読本の活用が一過性にならないように、校長と協議されることも必要だと思います。</li> <li>・都城市奨学金条例の一部を改正する条例の制定に関して、経過措置として、現在奨学金を利用している現在高校1年、2年の人は残り2年間利用でき、高校授業料無償化と重複するのですね。</li> </ul>

作成する1学期と運動会後の2回学校訪問を実施する計画がある。いずれにしても、校長の意見を聴くことは重要であると考えている。

(2)文化祭について

各地域の文化祭を6箇所程見学したが、それぞれに工夫があり充実したものであった。中学生が、文化祭の受付や案内に忙しく働いている姿を目にした。この経験により子どもに地域を見る力が養われることについて、文化祭の大きな意義を感じたところであり、もっと広がっていくことを期待している。公民館長をはじめ様々の方が文化祭に携わっておられるが、今後、教育委員会も応援したいと考えている。

(3)都城島津伝承館実物資料展示の記念シンポジウムについて  
10月29日開催された記念シンポジウムに出席したが、居住しているながら都城市のことを知らないというこ  
とに目を開かせていただいたと感じている。また、大きな成果として、今後教育委員会が何をすべきなのかを考  
えさせられたことである。松平氏の話された「歴史は未来のため  
にある。」という素晴らしい言葉を受けて、子どもたちに地域の  
歴史をしっかりと教育していくことが重要であり、このことを  
校長会で伝えたいと考えている。

・昨年度に社会教育振興大会に参加しましたが、講演内容が難しかったので、今年度は、もっと聴衆に伝わるような身近な内容の講師の選定に工夫していただきたいと思っています。市民に身近な、実践された事例についての講演内容にしていきたいと思っています。

・各小学校の職員を放課後児童クラブに派遣し、校長に実態を伝えることにより、各小学校毎の連携を図り、そのネットワークを構築する必要があるのでないでしょうか。

各学校で、放課後子ども事業について会合があれば問題点の解決策の検討もできると思います。

放課後子ども事業については、子守りだけではなく、教育的な配慮が必要であると思います。

・富松良夫顕彰創作詩コンクールに関しては、読みにくいものについては、図書館で打ち直しをしていただいた御苦勞に感謝いたします。審査については、5回の検討会を実施しましたが、一般の部の審査については、それなりの説明ができますが、児童・生徒の作品については、教育に携わっている先生の視点での審査が必要だと思います。そこで、来年度に可能であれば、小学校の先生を審査委員に入れて欲しいと思います。受賞者の作品の出来上がる過程が素晴らしいと思います。

審査発表の後に講演もあり、さらに自分の詩を朗読されたことは、大変良かったと思います。本市出身の富松良夫さんの詩が良かったと感じ、大変素晴らしい会だったと思います。

<p>9 (1)平成 22 年 11 月 22 日(月)</p> <p>(2)市役所南別館 3 階 委員会室</p> <p>(3)報告 3 件、議案 1 件 (4)0 人</p>	<p>(1)研究公開について</p> <p>11 月 19 日(金)に縄瀬小学校で研究公開が実施された。算数教科を中心に実施されたが、180 名の教職員の参加があり、充実した内容の素晴らしい授業であった。子どもたちは緊張の中にも、のびのびとしており大きな研究の成果があったと感じた。校長のリーダーシップのもとに授業力向上に取り組んでおり、研究指定校の大きな発展が期待される。</p> <p>(2)県教育委員の視察について</p> <p>11 月 15 日(月)に県教育委員の視察の後に意見交換会があり、えびの市は欠席であったが、都城市、三股町、小林市、高原町の教育長が参加し、情報交換を行った。本市の特色ある教育施策として、学校図書館サポーター事業やエキスパートティチャー事業について紹介した。</p> <p>県教育委員の講評として、県に北部・中部・南部の 3 ケ所の教育事務所があるが、南部教育事務所での意見交換会が特に充実していたとのことであった。さらに、授業力向上の推進を図りたい。</p> <p>(3)女性議会について</p> <p>11 月 16 日(火)に女性議会が開催され、7 名の女性から質問があり、その内 3 名の方から教育委員会関連の質問があった。教育に関する興味を持ってもらえる方が多く、教育委員会全員で一致協力して職務に精励する必要性を感じたところである。</p>	<p>・女性議会では活発な意見が出され、「目からうろこ」という感じでした。</p> <p>・小学生の自殺やいじめ等が、本市でもよそ事ではない状況になっています。都城市青少年健全育成市民大会及び家庭教育振興大会の講演内容を家庭の問題に関するものにして欲しいと思います。</p> <p>大会の開催日程が、平日の午前中と働いている主婦が参加しにくいものになっています。私も参加の声をかけたいと思いますが、大会開催の PR に力を入れて欲しいと思います。土曜日、日曜日が無理であれば、参加者を募りやすい平日の午後 7 時からが良いと思います。</p> <p>平日の午前中は、参加者を募るのが難しく、できたら土曜日、日曜日が良いと思います。夜の開催は難しいのでしょうか。若い保護者は大体仕事を持っていきます。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>10 (1)平成23年 1月7日(金) (2)市役所南別館3階 委員会室 (3)報告5件、議案6件 (4)0人</p>	<p>(1)冬休み期間中の管内の状況について 本市は本日が3学期の始業式であったが、宮崎市、三股町が同じく今日が始業式であった。延岡市は1月5日、その他の市・町・村は概ね1月11日が始業式である。本日の朝、相談員、指導員10名、各学校2名ずつ登校指導に当たったところである。寒い朝であったが、手袋もせず元気一杯に登校しており、順調に新学期が始まったところである。12月31日に宮崎日日新聞に、日向市の2校でガラス破損があったことが掲載されていた。本市においても報道を聞いて、点検を行った学校が多く見受けられた。1月4日調査したところ全校異常はないところである。病気もけがも無く、順調に始業し安心しているところである。</p> <p>(2)成人式について 本市で1月3日から5日まで市内15地区で、一部を除き出身中学校で成人式が行われた。以前のような騒ぎは無く、すばらしい成人式であった。3地区の成人式を見たが、実行委員以外の地域の方々や中学生が設営に当たっていたという話であった。式典では規律ある態度で、来賓の「おめでとう」という祝辞に、小声ではあったが「ありがとう」という返事をする地区もあり、新鮮な思いで聞いたところであった。式終了後、成人男性と一緒に後片付けをする地区もあった。また、実行委員会の青年が生涯学習課の担当に色紙や花束を贈呈するなど、心がながつている様子が複数見られ、感動的であった。来年成人式の子を持つ保護者が実行委員になったり、昨年の実行委員と中学生との世代を超えたふれあいの様子を見て、地域で子どもを育てる意識があることを感じ感動したところであ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・娘の成人式の時に家庭で娘と話をした時、娘の友人ががりっぱな成人式のあいさつをしたことについて、友人がインターネットで全国の成人式のあいさつを数多く収集した後に編集したことを聞き、すばらしいことだと感じた。</li> <li>・姫城地区の成人式に出席したが、昭和19年に成人を迎え式に出席された公民館長がいさつの中で、自分たちが若い時には成人式がなく、兵役検査で病気のため合格せず、自分は国の役に立たないと絶望した友人もあるという話をされた。そして、今の時代に生きる若者は幸福だと思えないと論され、体験した人の話は貴重であると思った。私も父の千人針を縫ったが、臨場感があるのは大事なことで公民館長の話に共感した。成人式のアトラクションで思い出をスクリーンに映し出していたが、編集のすばらしさに感動した。</li> <li>・五十市地区の成人式に出席したが、先生方が教え子の成長を温かい目で見てもらった。成人式を迎えた2人が結婚したとの話を聞いたり、先生も晴れ着姿であったことなど、なごやかな雰囲気であった。遠足の延長のような写真撮影風景を見て良い成人式だったと感じた。</li> <li>・地区毎に分かれて、気心の知れている同士が集う成人式開催は、成功だったと感じている。</li> <li>・祝吉地区の成人式に出席したが、手作りの成人式で、成人代表の方が自分の思いを自分の言葉で述べられていたが、その姿に魅力を感じた。</li> <li>・高城運動公園のサッカー場のトイレは整備されていますが、観覧席は全国的なイベントを行うには、まだ整備が不十分です。各種スポーツ団体を誘致するためには、観覧席の整備も必要ではないかと思えます。</li> <li>・競技場をトップレベルにするか、市民レベルにするか検討が必要だと思えますが、有効活用が図れるようにお願いします。</li> <li>・春季休業日が多くなり4月の始業式が遅くなったことについては、多</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

11	<p>(1)平成23年 2月18日(金) (2)都城島津邸2階 会議室 (3)報告6件、議案15件 (4)0人</p>	<p>る。中学校には負担をかけるが、多くの感動を受けたことに感謝しているところである。</p> <p>(3)高城中での道徳を語る会について 1月11日高城中で、道徳の授業後に我が校の道徳教育と題して体育館で全体会が開催された。インパクトのある会で、地域に広がるとすばらしいと感じたところであり、校長会でも伝えたいと考えている。中学生の体験発表を聞いたが、このような取組みの大事さを感じたところである。</p>	<p>忙な先生方のためには良かったと思います。</p>
		<p>(1)新燃岳噴火災害の学校の対応について 1月26日以降の新燃岳の大きな噴火による降灰について、各学校の状況を把握したところである。1月30日(日)には、緊急に御池小、夏尾小、夏尾中、山田小、山田中、木之川内小、中霧島小の7校の校長を集めて第1回新燃岳対策学校関係協議を開催し、現在の状況と今後の対応について協議した。特に、児童・生徒にはケガはなかったところである。噴火が長期化した場合を想定して、御池小、夏尾小、夏尾中については教育の場を山田小、山田中に移設することで、一応の見通しを立てたところである。</p> <p>また、2月8日(火)には、1月26日の協議に参加した7校と西岳小、西岳中、吉之元小の10校の校長を集めて第2回新燃岳対策学校関係協議を開催し、土石流災害に備えて降灰等の状況把握と今後の対応について協議したところである。危機管理課から各学校の対応について聴き取りがあり、連絡体制や対応について話が合った。土石流の各学校の対応</p>	<p>・市長と教育委員会の役割を踏まえた上で、最近の共通テーマについてお互いの理解を図ることは有効なことだと思いますので、市長との意見交換会が開催されることを希望します。</p> <p>・市長との意見交換会は、その開催目的とテーマをはっきり設定しないと、開催は難しいと思います。</p> <p>・2月24日に開催された都城市青少年健全育成市民大会及び家庭教育振興大会に参加しましたが、大変素晴らしいものでした。ありがとうございました。</p> <p>・図書館は老朽化しており耐震の問題を考えると、市民も心配な部分もあるのではないだろうか。</p> <p>(星原委員退任あいさつ) 2月24日で退任することになりましたが、毎回の教育委員会で、事務局の方からいろいろな回答をいただき、大変勉強になりました。5年間の教育委員在任中に、市民として良い経験ができました。今回の予算関連の付議案件で、全課長、館長が出席されて協議が行われましたが、共通理解が図られるという点で良いことだと思いま</p>

12	<p>(1)平成23年 2月25日(金)</p> <p>(2)市役所南別館3階 委員会室</p> <p>(3)報告0件、議案1件</p> <p>(4)0人</p>	<p>については別紙のとおりである。各学校で同じ対応ではないと考えられており、共通理解が必要である。1人のケガもなないように、緊張感をもって毎日を過ごす覚悟である。</p> <p>(2)新燃岳噴火災害の学校への支援について</p> <p>噴火災害を受けて、心暖かい学校への物資の支援があった。デッキブラシ、高圧洗浄機、小学生用ヘルメット40ケについては直接持参され、その他、トンボ、マスク等の寄贈があった。2月16日(水)には、市南消防署レスキュー隊及び九州電力都城営業所の方々ボランティアで御池小の雨トイの降灰除去作業をされたところであり、大変感謝している。</p> <p>(3)インフルエンザの状況</p> <p>1月中にインフルエンザにより小学校8校、中学校1校が学年閉鎖、学級閉鎖になり、7校が繰り上げ下校となった。昨日は、市内で36名がインフルエンザにかかっており、各学校で対応している。3月8日、9日が高校受験となっているため、きめ細かな生徒指導が必要である。</p> <p>※教育長報告なし</p> <p>議案第23号「委員長選挙及び委員長職務代理者の指定について」</p>	<p>す。市長との意見交換会も年1回でもあれば大変有意義であると思います。皆様、お体を大切になさって、都市発展のためにご尽力いただきますようお願いいたします。大変お世話になりました。</p>
		<p>○委員長の選挙については、選挙、または、指名推薦の方法がありますが、どちらで行いましょうか。</p> <p>・指名推薦の方法でよろしいのではないのでしょうか。</p> <p>○それでは、指名推薦で行います。委員長の推薦をお願いします。</p> <p>・教育委員長を務めていただいております小西委員に引き続き委員長をお願いしたいと思いますので、推薦させていただきます。</p> <p>○只今の推薦ですが、皆様いかがでしょうか。</p>	

<p>(異議なし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瓦田委員が欠席の中、気になるところですが、私でよろしいでしょうか。これまで、1年やってまいりましたが、皆様の御意見なり、御指導なりをよろしく願います。</li> <li>○次に、委員長職務代理者の指定についてですが、これも選挙、または、指名推選のどちらで行ないましょうか。</li> <li>・指名推選で良いのではないのでしょうか。</li> <li>○それでは、指名推選で行います。委員長職務代理者の推選をお願いいたします。</li> <li>・堀内委員が、これまで教育委員会に携わってこられましたので、堀内委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</li> <li>・瓦田委員の体調が気になるところではございますが、私としては、経験をお持ちの瓦田委員がよろしいのではないかと思えます。私は、青年会議所の幹事長もやらしてもらっています。そのような中で、ご迷惑をかけた場合はどうなるのかなという不安を感じているところでございます。受けた場合には責任を伴いますので、そのあたりを慎重に御審議いただければと思います。</li> <li>○そのようなご意見ですが、いかがでしょうか。</li> <li>・前年度は、どなたが委員長職務代理者を務められたのでしょうか。</li> <li>○前年度は、任期を満了され退任されました星原委員が1年間職務代理者を務めてくださいました。その前は、私が1年間職務代理者を務めさせていただきました。その役割は、委員長が欠けた時の代理者ということですが、出席の責任というものは、5人の教育委員と全く同じと考えております。</li> <li>・瓦田委員の意見を聞かなくてよろしいのでしょうか。</li> <li>・単純に考えれば、教育委員としての経歴が長く、その内容が解って</li> </ul>
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

いる方が順番にということかなと思います。堀内委員のおっしゃることでもごもっともだと思いますが、今日決めないと支障があるのでしようか。

(事務局)

委員長に事故あるときはということ、それが全くないということであれば後日ということもありますが、そういう訳にもいきませんので、やはり今日決定していただかないといけないと考えております。

・委員長が指名ということは、できないのでしょうか。

○これは、選挙及び指名推選と決まっておりますので意見として推薦はできませんが、指名ということはできないと思います。

出席の義務については、私は日頃思っているんですが、教育委員と同じだと思っております。瓦田委員の御病状につきましては先日初めて聞いた訳ですが、説明をお願いします。

(事務局)

2月21日に瓦田委員から電話がありまして、前日の夜に急に腹痛があり、国立病院に行かれました。そこで医者から手術が必要だと診断されたということで、手術の日については聞いておりませんが、少なくとも2週間は何もできない状況であるとのことでした。

○どなたも瓦田委員とは、お会いにはなっていないのですね。

(事務局)

まだ、誰もお会いしておりません。

・そういう事情であれば、皆様がよろしければご迷惑をおかけするかもしれませんが、受けさせていただきます。

○それぞれ忙しいとは思いますが、是非、通常の行事にできるだけ参加いただきますようお願いいたします。それでは、職務代理者に堀

13	(1)平成23年 3月5日(土) (2)市役所南別館3階 委員会室 (3)報告0件、議案1件	<p>本日の臨時教育委員会は、議案にありまうように地方教育行政の組織及び運営に関する法律第38条第3項の規定に基づき、教職員の人事の内申について付議するものです。</p> <p>平成23年4月1日付けの県費教職員の人事異動内申を宮崎県教育委員会に行うということにつきまして、都城市教育委員会</p>	<p>内委員を決定いたします。</p> <p>○堀内委員 仕事は別ですが、その他の役職も含めて、この教育委員の役職は大きいと思っておりますので、これから最優先に動いていきたいと思 います。 (事務局) それでは、本日指名推薦されました、委員長、職務代理人にご挨拶 をいただきたいと思 います。</p> <p>○小西委員長 教育界とは無縁であった私が、教育委員になって6年を過ぎたところですが、人生は予定できないものであると思 います。会社経営と趣味の活動の中で色々な出会いがありましたが、教育委員になって全く新しい出会いをいただきまして、何とか今日までやらせていただ いております。1年間、ご迷惑をおかけすることと思 いますが、本 当に忌憚なく叱咤激励をいただきたいと思 いますので、よろしく お願い します。</p> <p>○堀内委員 職務代理人という役を頂き、今、頭の中が真っ白になっております けど、教育委員として全ての行事を最優先に動いていきます。その 中 でもご迷惑をおかけすると思 いますが、委員長を支えていけるよ うに頑張り ますので、よろしく お願い いたします。</p> <p>※非公開議案</p>
----	------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4)0人

の権限に属する事務の一部事務委任等規則第2条第第1項第6号に基づき、この議案を提出するものです。

教職員の人事異動につきましては、昨年11月2日に宮崎県教育委員会の教職員人事の異動方針を受けて、各校長先生方の思い、具申を十分に尊重しながら教育事務所と何回もヒアリングを重ねながら十分な協議を重ねてきました。そして、ようやくその人事異動を取りまとめたところです。

その概要につきまして説明させていただきます。異動作業につきましては、校長の具申を生かして各学校が元気が出るような配置を心掛けました。又、教職員の一人一人につきましても、その教職員の視野の拡大を配慮していただくよう教育事務所長にお願いたしましたところ です。

また、管理職についても適正力量を考慮いたしまして、校長と教頭の相互関係も十分に配慮いただくようお願いしました。

全体的なことを申し上げますと、へき地の学校が県北を中心にある訳ですが、本人の希望も生かしながら教職員課が配置をしていくこととなります。本年度は教諭につきましては、小学校7名、中学校3名、養護教諭につきましては、小学校1名、中学校1名の合計12名がへき地に勤務することとなります。

普通は人事異動のルールは、その校5年、都城、北諸県管内に15年居た時に、管外との交流を考える訳ですが、それに満たない場合でも本人が病気だとか、家族が病気だとか、結婚だとか、そういう特殊な事情によって転勤をさせる場合があります。5年満たなくても、例えば1年でも、2年でも、そういうことが起こりうる訳です。特殊事情については後で説明する訳ですが、ほぼ希望通りに転任が図られたと思います。

## □教育委員会の会議の運営等に対する教育委員の自己・点検評価

### 【事前の会議資料について】

○会議資料についての十分な精読、理解に努めて、定例教育委員会に臨みたい。その上に各課・館の説明、館の説明、回答、委員相互の意見を重ねて、各課・館提案事項のより効果的な実現に努力したいと思う。

○資料が事前に配付されたことにより、内容を把握したうえで会議に臨めることができ、さらに各担当課・館長からの詳細な説明で理解度も深まり、熱心な審議ができたと考ええる。

○事前に協議資料を配付するだけでなく、教育委員会各課・館等が付議する議案等のポイントを事前に教育委員に伝えて欲しい。そうすることによって、委員も意見や提案を発言しやすくなり、協議をスムーズに進められると考える。

○近い将来にペーパーレス会議を目指していくことを提案する。メールのやり取りをすることで、コピーをしたり、会議資料を配付する時間が要らなくなり、資料の確認も今より事前に目を通すことができるので、修正があってもメールで受け取れる。会議資料の保存についてはメモリーチップを活用すれば、場所も取らず、腐食もせず、後日資料を見直すことも簡単にできる。ノートパソコンを持っていない方には、教育委員会予算で購入し、貸与という方法があると考ええる。当初に経費はかかるが、年間のコピー代等の縮減で対応できるのではないかと考える。

### 【議事の進行について】

○貴重な時間をかけて開催している定例教育委員会がより内容の濃いものになるため、より多面的な意見が出されるよう議事の進行に留意したいと思う。

### 【教育長報告について】

○毎回の教育長報告は、最重要ポイントが絞られており説明が具体的で、教育長の思いや運営方針等が伝わり、委員としての自覚や意欲を喚起することができ、大変有用だと思う。

### 【会議開催場所について】

○定例教育委員会の開催場所を委員会室以外にも広げて開催することで、新しい視点が期待でき、傍聴者の数も増えるのではないかと思う。(平成22年4月及び平成23年2月定例教育委員会は、都城島津邸の会議室で開催した。)

### 【教育委員会業務の把握について】

○当初は教育委員会の業務の全容把握が不十分で、委員として何をすべきか困惑した。

(別紙資料)

平成 2 2 年度都城市教育委員会  
付議事件名表一覽

平成22年4月定例教育委員会付議事件名表

種類	番号	件名
報告	17	臨時代理した事務の報告及び承認について (定期人事異動)
報告	18	臨時代理した事務の報告及び承認について (都城市教育委員会懲戒処分の指針及び都城市教育委員会事務局職員の懲戒処分等の公表に関する指針の制定)
報告	19	臨時代理した業務の報告及び承認について (学校医の委嘱)
報告	20	臨時代理した業務の報告及び承認について (スクールアシスタントの委嘱)
報告	21	宿泊を伴う校外活動にボランティアを同行させることに関する規定の一部を改正する告示の制定について
報告	22	臨時代理した業務の報告及び承認について (事務主任の発令)
報告	23	臨時代理した業務の報告及び承認について (共同実施主任の発令)
報告	24	臨時代理した業務の報告及び承認について (共同実施中心校の変更)
報告	25	都城市奨学生選考基準の制定について
報告	26	平成22年3月末に失効の補助金交付要綱について
報告	27	臨時代理した事務の報告及び承認について (都城市体育指導委員の委嘱)
報告	28	平成22年度都城市生涯学習初級講座実施要項の制定について
報告	29	都城市社会教育関係補助金交付要綱の一部を改正する告示の制定について
報告	30	臨時代理した事務の報告及び承認について (放課後子ども教室コーディネーターの委嘱)
議案	23	都城市教育委員会事務決裁規則の一部を改正する規則の制定について
議案	24	都城市学校支援地域本部事業地域コーディネーターの委嘱について
議案	25	放課後子ども教室安全管理人の委嘱について

平成 2 2 年 5 月 定例教育委員会付議事件名表

種 類	番 号	件 名
報告	3 1	学校施設の耐震化状況及び耐震診断結果の公表について
報告	3 2	臨時代理した事務の報告及び承認について (結核対策委員の委嘱について)
報告	3 3	臨時代理した事務の報告及び承認について (都城市少年補導委員の委嘱について)
報告	3 4	平成 2 2 年度第 4 6 回都城市市民大学講座開催要項の制定について
報告	3 5	五十市地区公民館建設に伴う市道の廃止について
報告	3 6	臨時代理した事務の報告及び承認について (都城市教育研究所研究員の委嘱について)
議案	2 6	都城市教職員住宅管理規則の一部改正の規則について
議案	2 7	平成 2 2 年度都城市教育委員会組織変更に伴う関係規則の整理に関する規則の制定について
議案	2 8	都城市文化財保護審議会委員の委嘱について
議案	2 9	都城市歴史資料館運営委員会委員の委嘱について
議案	3 0	都城市山之口麓文弥節人形浄瑠璃資料館運営委員会委員の委嘱について
議案	3 1	特別展「国立美術館巡回展」の観覧料について
議案	3 2	都城市美術展運営実行委員会委員の委嘱について
議案	3 3	都城市立美術館作品収集委員会委員の委嘱について

平成22年6月定例教育委員会付議事件名表

種 類	番号	件 名
報告	37	臨時代理した事務の報告及び承認について (都城市立学校体育施設開放運営委員会委員の委嘱について)
報告	38	平成22年度都城市成人式開催要項の制定について
報告	39	臨時代理した事務の報告及び承認について (都城市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について)
報告	40	臨時代理した事務の報告及び承認について (口蹄疫に伴う名義後援の取扱いについて)
議案	34	平成22年度都城市教育基本方針(案)について
議案	35	都城市教育委員会の組織及び事務分掌等に関する規則の一部を 改正する規則の制定について
議案	36	都城市教育委員会の所管する教育機関等に勤務する職員の勤務 時間に関する規則の一部を改正する規則の制定について
議案	37	教育財産の廃止について
議案	38	都城市公民館組織規則の一部を改正する規則について
議案	39	平成22年度6月補正予算について
議案	40	都城市都城島津邸条例施行規則の一部を改正する規則について
議案	41	都城市少年補導委員の委嘱について

平成22年7月定例教育委員会付議事件名表

種類	番号	件名
報告	41	専決処分した事務について (平成22年度都城市教育委員会名義後援について)
報告	42	臨時代理した事務の報告及び承認について (都城市就学指導委員会委員の委嘱について)
報告	43	専決処分した事務について (平成22年度都城市立小・中学校の学級編成について)
報告	44	人権啓発標語募集要項の制定について
報告	45	臨時代理した事務の報告及び承認について (都城市学校給食センター運営審議会委員の委嘱について)
報告	46	臨時代理した事務の報告及び承認について (高城郷土資料館運営委員会委員の委嘱について)
報国	47	都城市スポーツイベント開催補助金交付要綱の一部を改正する告示について
報告	48	平成22年度特別展「国立美術館巡回展」開催要項の制定について
報告	49	第57回都城市美術展開催要項の制定について
議案	42	都城市教育委員会の組織及び事務分掌等に関する規則の一部を改正する規則の制定について
議案	43	都城市教育委員会の所管する教育機関等に勤務する職員の勤務時間に関する規則の一部を改正する規則の制定について
議案	44	平成22年度「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価」の方法等について
議案	45	都城市教育委員会外部評価委員の委嘱について
議案	46	平成23年度使用小学校用教科用図書決定について
議案	47	都城市立学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について
議案	48	平成22年度就学援助費却下通知への異議申立てについて
議案	49	都城市体育指導委員の委嘱について
議案	50	都城市人権啓発推進協議会副会長及び幹事の委嘱並びに任命について
議案	51	都城市社会教育委員及び都城市公民館運営審議会委員の委嘱について
議案	52	都城市学校支援地域本部委員の委嘱について
議案	53	都城市放課後子ども教室安全管理員の委嘱について
議案	54	都城市立美術館協議会委員の委嘱について

平成 22 年 8 月 定例教育委員会付議事件名表

種類	番号	件名
報告	50	平成 22 年度都城市子どもフェスティバル開催要項の制定について
議案	55	教育財産の廃止について
議案	56	都城市学校支援地域本部委員の委嘱について
議案	57	指定をしようとする文化財の諮問について
議案	58	都城市立幼稚園条例の一部を改正する条例について
議案	59	都城市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について
議案	60	都城市図書館協議会委員の委嘱について

平成 22 年 9 月 定例教育委員会付議事件名表

種類	番号	件名
報告	51	専決処分した事務について (平成 22 年度都城市教育委員会名義後援について)
報告	52	全国学力・学習状況調査及びみやざき学力・意識調査の結果等について
議案	61	平成 22 年度 9 月補正予算について
議案	62	平成 21 年度都城市教育委員会の自己点検・評価について
議案	63	都城市教職員住宅管理規則の一部を改正する規則の制定について
議案	64	教育財産の廃止について
議案	65	文化財の指定について
議案	66	都城市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について

平成22年10月定例教育委員会付議事件名表

種類	番号	件名
報告	53	臨時代理した事務の報告と承認について (教育財産の廃止について)
報告	54	臨時代理した事務の報告と承認について (スクールアシスタントの委嘱について)
報告	55	臨時代理した事務の報告と承認について (都城市立小・中学校教職員の特別な事情による結婚休暇の承認手 続取扱要領を廃止する訓令の制定について及びこれに伴う都城市 立学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について)
報告	56	臨時代理した事務の報告と承認について (都城市埋蔵文化財保存活用整備事業検討委員会設置規程の制定に ついて)
報告	57	専決処分した事務について (平成22年度都城市教育委員会名義後援について)
報告	58	平成22年度家庭教育人材養成講座実施要項の制定について
議案	67	都城市鷹尾市民プール条例を廃止する条例の制定について
議案	68	都城市鷹尾市民プール条例施行規則を廃止する規則の制定について
議案	69	都城島津邸で実施する特別展「都城島津の至宝」の観覧料について

平成22年11月定例教育委員会付議事件名表

種類	番号	件名
報告	59	専決処分した事務について (平成22年度都城市教育委員会名義後援について)
報告	60	第65回南九州駅伝競走大会の開催要項の制定について
報告	61	平成22年度都城市社会教育振興大会開催要項の制定について
報告	62	平成22年度第2回富松良夫顕彰創作詩コンクール審査結果につい て
議案	70	都城市奨学金条例の一部を改正する条例の制定について
議案	71	都城市放課後子どもプラン運営委員会の委嘱並びに任命について

平成 22 年 1 2 月 定例教育委員会付議事件名表

種類	番号	件名
報告	63	専決処分した事務について (平成 22 年度都城市教育委員会名義後援について)
報告	64	平成 22 年度都城市スポーツ賞の選考結果について
報告	65	平成 22 年度都城市青少年育成市民大会及び家庭教育振興大会催 要項の制定について
議案	72	平成 22 年度 1 2 月補正予算について

平成 23 年 1 月 定例教育委員会付議事件名表

種類	番号	件名
報告	1	専決処分した事務について (平成 22 年度都城市教育委員会名義後援について)
報告	2	臨時代理した事務の報告と承認について (教育財産の廃止について)
報告	3	臨時代理した事務の報告と承認について (都城市奨学金条例施行規則の一部を改正する規則の制定について)
報告	4	臨時代理した事務の報告と承認について (都城市宮崎県御池青少年自然の家利用校補助金交付要綱の一部 を改正する告示の制定について)
報告	5	平成 22 年度第 29 回都城市高齢者学級振興大会開催要項の制定 について
議案	1	平成 22 年度 1 月補正予算について
議案	2	都城市立学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について
議案	3	都城市公民館条例の一部を改正する条例の制定について
議案	4	文化財の指定について
議案	5	都城市学校給食センター条例の一部を改正する条例の制定につい て
議案	6	平成 22 年度都城市立美術館作品収集委員会への諮問について

平成23年2月定例教育委員会付議事件名表

種類	番号	件名
報告	6	専決処分した事務について (平成22年度都城市教育委員会名義後援について)
報告	7	平成23年度都城市立小中学校の入学式の期日を定めることについて
報告	8	平成22年度都城市学校支援地域本部事業成果発表会開催要項の制定について
報告	9	都城市社会教育功績者等の表彰について
報告	10	平成23年度都城市立幼稚園の入園式の期日を定めることについて
報告	11	専決処分した事務について (平成22年度1月専決予算について)
議案	7	平成22年度3月補正予算について
議案	8	平成23年度当初予算について
議案	9	平成22年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価に関する報告書(平成21年度対象)について
議案	10	都城市教職員住宅管理規則の一部を改正する規則の制定について
議案	11	都城市奨学資金貸付基金条例施行規則を廃止する規則の制定について
議案	12	学校医の委嘱について
議案	13	都城市使用料条例の一部を改正する条例の制定について
議案	14	都城市使用料条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
議案	15	都城市農村環境改善センター管理規則の全部を改正する規則の制定について
議案	16	都城市体育施設使用料の免除手続きの特例に関する規則の一部を改正する規則の制定について
議案	17	都城市立学校体育施設開放に関する規則の一部を改正する規則の制定について
議案	18	都城市公園運動施設管理規則を廃止する規則の制定について
議案	19	都城市高崎運動広場管理運営規則を廃止する規則の制定について
議案	20	図書館業務の委託(一部委託)について
議案	21	平成22年度上原文庫保存活用検討委員会設置要項の制定について
議案	22	平成22年度上原文庫保存活用検討委員会委員の委嘱について

平成 2 3 年 2 月 臨時教育委員会付議事件名表

種類	番号	件名
議案	23	委員長の選挙及び委員長職務代理者の指定について

平成 2 3 年 3 月 定例教育委員会付議事件名表

種類	番号	件名
議案	24	市町村立学校職員給与負担法第 1 条及び第 2 条に規定する職員の人事の内申に関する事について

平成22年度 都城市教育委員会の自己点検・評価シート その1-2

平成22年度に教育委員会事務局及び教育機関が教育委員に依頼した参加行事、研修会等を列記したものです。

(2) その他教育委員の活動

月 日	参加行事・研修等名	参加教育委員名 (教育長を含む)	担当課
4月1日	宮崎県公立小・中学校新規採用教職員辞令交付式	全委員	学校教育課
4月2日	平成22年度都城市スポーツ少年団総会・懇談会	教育長	スポーツ振興課
4月3日	高円宮賜杯第30回全日本学童軟式野球都城地区大会開会式	教育長	スポーツ振興課
4月5日	平成22年度南九州大学入学式	教育長	教育総務課
4月5日	都城市立小・中学校転入職員着任式	委員長・教育長	学校教育課
4月6日	平成22年度都城市特別攻撃隊戦没者慰霊祭	教育長	教育総務課
4月8日	中学校入学式	全委員	学校教育課
4月8日	H22・23年度体育指導委員委嘱状交付式	教育長	スポーツ振興課
4月9日	小学校入学式	全委員	学校教育課
4月11日	都城泉ヶ丘高校附属中学校開校式・入学式	教育長	教育総務課
4月13日	宮崎縣市町村教育長連協総会	委員長・教育長	教育総務課
4月14日	放課後子ども教室委嘱状交付式・研修会	教育長	生涯学習課
4月14日	教育委員会歓送迎会	全委員	教育総務課
4月16日	第1回都城市小中学校校長会	教育長	学校教育課
4月17日	都城市壮年団体連絡協議会総会	教育長	生涯学習課
4月19日	南部教育事務所管内校長会	教育長	学校教育課
4月21日	平成22年度都城市体育協会懇談会	教育長	スポーツ振興課
4月22日	平成22年度都城市体育指導委員協議会総会・懇談会	教育長	スポーツ振興課
4月23日	都城市小中学校教頭会	教育長	学校教育課
4月27日	社会科副読本編集委員委嘱状交付式	教育長	学校教育課
4月28日	平成22年度都城国際交流協会理事会・総会	教育長	教育総務課
5月1日	第58回都城市近郊中学生野球大会	教育長	スポーツ振興課
5月7日	平成22年度市町村教育委員会連合会第1回理事会	教育長	教育総務課
5月8日	都北退職校長会総会	教育長	教育総務課
5月9日	おかげ祭り実行委員会発足式	教育長	教育総務課
5月10日	通級指導教室開級式	教育長	学校教育課
5月11日	教育研究所開所式	全委員	学校教育課
5月11日	平成22年度都城市防災会議	教育長	教育総務課
5月14日	学校経営ビジョン説明会	教育長	学校教育課
5月15日	都城市PTA連絡協議会総会	教育長	生涯学習課
5月17日	小さな親切運動月例会及び実行章贈呈式	教育長	教育総務課
5月18日	第57回都城市美術展実行委員会	教育長	美術館

月 日	参加行事・研修等名	参加教育委員名 (教育長を含む)	担当課
5月21日	都城地区租税教育推進協議会	教育長	教育総務課
5月24日	エキスパートティーチャー連絡協議会	教育長	学校教育課
5月25日	学校図書館サポーター辞令交付式	教育長	学校教育課
5月25日	第64回(財)都城施設協会理事会	教育長	教育総務課
5月27日	宮崎県都市・町村教育長協議会会議	教育長	教育総務課
6月1日	平成22年度教科用図書北諸県地区採択協議会	委員長・教育長	学校教育課
6月4日	学校訪問(麓小)	瓦田委員	学校教育課
6月16日	学校訪問(高城中)	堀内委員	学校教育課
6月18日	学校訪問(西小)	星原委員	学校教育課
6月21日	学校訪問(小松原中)	星原委員	学校教育課
6月21日	平成22年度教科用図書北諸県地区採択協議会専門委員会	教育長	学校教育課
6月21日	第1回就学指導委員会	教育長	学校教育課
6月22日	都城支会校長会小・中学校校長研修会	教育長	学校教育課
6月22日	学校訪問(中郷中)	星原委員	学校教育課
6月23日	学校訪問(大王小)	委員長	学校教育課
6月25日	学校訪問(祝吉中)	瓦田委員	学校教育課
6月28日	学校訪問(妻ヶ丘中)	瓦田委員	学校教育課
6月29日	学校訪問(安久小)	委員長	学校教育課
6月30日	学校訪問(上長飯小)	瓦田委員	学校教育課
6月30日	市町村教育長連協 第1回支部長会	教育長	教育総務課
6月30日	健康づくり推進協議会	教育長	教育総務課
7月1日	結核対策委員会	教育長	学校教育課
7月2日	平成22年度教科用図書北諸県地区採択協議会専門委員会	教育長	学校教育課
7月2日	南九州大学「夢をかなえる塾」	教育長	教育総務課
7月3日	中体連地区大会視察	教育長	学校教育課
7月6日	学校訪問(御池小)	堀内委員	学校教育課
7月7日	学校訪問(石山小)	瓦田委員	学校教育課
7月7日	学校訪問(庄内小)	堀内委員	学校教育課
7月7日	市町村教育委員会連合会第2回理事会・総会	教育長	教育総務課
7月8日	平成22年度教科用図書北諸県地区採択協議会	委員長・教育長	学校教育課
7月9日	第2回都城市小中学校校長会	教育長	学校教育課
7月16日	宮崎県市町村教育長連協第2回支部長会	教育長	教育総務課
7月28日	平成22年度都城市立美術館協議会	教育長	美術館
8月1日	全国高等学校総合文化祭開会式	教育長	教育総務課
8月3日	市民大学講座開講式	教育長	生涯学習課

月 日	参加行事・研修等名	参加教育委員名 (教育長を含む)	担当課
8月5日	第12回都城空襲犠牲者追悼会	教育長	教育総務課
8月5日	平成22年度宮崎県市町村教育長連協研修会	教育長	教育総務課
8月6日	市町村教育長等人権教育研修会	教育長	生涯学習課
8月11日	平成22年度第1回文化財保護審議会	教育長	文化財課
8月17日	都城市人権啓発推進協議会全大会	全委員	生涯学習課
8月14日	高城盆踊り(高城自治区まちづくり委員会主催)	教育長	高城教育課
8月19日	都城支会小中学校副校長・教頭会研修会	教育長	学校教育課
8月20日	都城市教育委員会第1回10年経過研修	教育長	学校教育課
8月20日	都城市立図書館運営協議会	教育長	図書館
8月21日	南九州中学校野球選手権大会	教育長	スポーツ振興課
8月24日	教育委員と各課等長の意見交換会	全委員	教育総務課
8月31日	生徒指導推進協議会総会	教育長	学校教育課
8月31日	第57回都城市美術展審査講評会	教育長	美術館
9月1日	学校訪問(縄瀬小)	堀内委員	学校教育課
9月1日	都城市学校給食会総会	教育長	学校給食課
9月3日	第3回都城市小中学校校長会	教育長	学校教育課
9月3日	P T A会長研修会	教育長	生涯学習課
9月5日	子ども会育成研究大会	教育長	生涯学習課
9月12日	中学校体育大会訪問	全委員	学校教育課
9月18日	第57回都城市美術展表彰式	教育長	美術館
9月21日	都城市戦没者・空襲犠牲者合同追悼式	教育長	教育総務課
9月22日	太陽光発電システム贈呈式	教育長	教育総務課
9月26日	第58回南九州陸上競技選手権大会開会式	教育長	スポーツ振興課
9月27日	都城市文化賞選考委員会	委員長・教育長	教育総務課
9月28日	学校給食費未納対策連絡協議会総会	教育長	学校給食課
9月30日	学校訪問(高崎中)	堀内委員	学校教育課
10月1日	社会教育委員会議・公民館運営審議会	教育長	生涯学習課
10月1日	2010 島津発祥まつり点灯式	教育長	教育総務課
10月3日	小学校運動会訪問	全委員	学校教育課
10月4日	学校訪問(吉之元小)	星原委員	学校教育課
10月8日	平成22年度都北地区青少年問題協議会委員会	教育長	生涯学習課
10月9日	安全・安心みやこんじょ盆地大会	教育長	教育総務課
10月9日	都城芸術文化協会合併5周年記念式典等	委員長・教育長	教育総務課
10月9日	都城市地区体育協会連絡協議会総会	教育長	スポーツ振興課
10月11日	都城芸術文化協会合併5周年記念特別公演	委員長	教育総務課
10月13日	九州都市教育長協議会第1回理事会	教育長	教育総務課

月 日	参加行事・研修等名	参加教育委員名 (教育長を含む)	担当課
10月14日	九州都市教育長協議会定期総会・研究大会	教育長	教育総務課
10月15日	特別展「セザンヌ、ピカソから現代展」開会式及び内覧会	教育長	美術館
10月15日	平成22年度都城市自治公民館地域振興大会	教育長	生涯学習課
10月17日	第32回宮崎県高校総合文化祭総合開会式	教育長	教育総務課
10月18日	小さな親切運動例会	教育長	教育総務課
10月18日	都城市奨学金審査会	教育長	学校教育課
10月21日	県費負担教職員に関する検討委員会	教育長	教育総務課
10月22日	学校訪問(乙房小)	瓦田委員	学校教育課
10月23日	祝吉地区壮年大学	教育長	教育総務課
10月26日	都城市市民大学講座閉講式	教育長	生涯学習課
10月26日	小体連陸上教室	教育長	学校教育課
10月27日	学校訪問(高城小)	委員長	学校教育課
10月28日	宮崎県都市教育長協議会	教育長	教育総務課
10月29日	都城島津伝承館実物史料展示記念シンポジウム	委員長・教育長	都城島津邸
11月3日	富松良夫顕彰創作詩コンクール表彰式	委員長・教育長	図書館
11月4日	学校訪問(志和池小)	委員長	学校教育課
11月4日	市PTA連協 市長・教育委員会との教育懇談会	委員長・教育長	生涯学習課
11月7日	島津発祥まつり	教育長	教育総務課
11月8日	講演会「明るい方へ 父太宰治と母大田静子」	委員長	図書館
11月9日	特別支援学級合同運動会	教育長	学校教育課
11月10日	平成22年度市町村教育委員会新任委員研修会	瓦田委員	教育総務課
11月11日	教育委員先進地視察(京都市)	全委員	教育総務課
11月15日	県教育委員会委員視察(意見交換会)	委員長	教育総務課
11月16日	平成22年度女性議会	委員長・教育長	教育総務課
11月17日	学校訪問(明道小)	瓦田委員	学校教育課
11月18日	第3回県市町村教育長連絡協議会支部長会	教育長	教育総務課
11月20日	平成22年度都城市地域福祉推進大会	教育長	教育総務課
11月24日	学校訪問(高崎麓小)	瓦田委員	学校教育課
11月24日	平成22年度市自公連 市長・教育長を囲む座談会	教育長	生涯学習課
11月25日	学校訪問(志和池中)	堀内委員	学校教育課
11月26日	都城駐屯百周年記念行事	教育長	教育総務課
11月27日	第50回宮崎県体育指導委員研究大会	教育長	スポーツ振興課
11月27日	市婦人連協研修「女性のつどい」	教育長	生涯学習課
11月29日	学校訪問(山田小)	委員長	学校教育課
12月2日	学校訪問(明和小)	星原委員	学校教育課

月 日	参加行事・研修等名	参加教育委員名 (教育長を含む)	担当課
12月3日	芸術文化協会懇親会	委員長	教育総務課
12月4日	都城市人権啓発推進大会	全委員	生涯学習課
12月10日	歯科医師会忘年会	教育長	教育総務課
12月14日	平成22年度市町村教育委員会連合会研究大会	星原・堀内・瓦田委員	教育総務課
12月16日	都城市スポーツ賞表彰式・体育協会懇談会	教育長	スポーツ振興課
12月16日	医師会忘年会	教育長	教育総務課
12月18日	bjリーグ始球式	教育長	スポーツ振興課
1月4日	成人式(姫城地区)	委員長	生涯学習課
1月4日	成人式(祝吉地区)	瓦田委員、教育長	生涯学習課
1月4日	成人式(五十市地区)	星原委員	生涯学習課
1月4日	成人式(志和池地区)	教育長	生涯学習課
1月4日	平成23年新年賀詞交換会	教育長	教育総務課
1月5日	成人式(小松原地区)	教育長	生涯学習課
1月5日	成人式(山之口地区)	堀内委員	生涯学習課
1月7日	都城市北諸県郡薬剤師会新年会	教育長	教育総務課
1月12日	第5回都城市小中学校校長会	教育長	学校教育課
1月14日	都城市立図書館主任等研修会	教育長	学校教育課
1月16日	第60回成人記念ロードレース大会開会式	教育長	スポーツ振興課
1月21日	第45回造形教育研究大会	教育長	学校教育課
1月25日	第4回宮崎県市町村教育長協議会支部長会	教育長	教育総務課
1月26日	都城島津伝承館審議会	教育長	都城島津邸
2月1日	西小学校環境緑化モデル事業完成式典	教育長	教育総務課
2月3日	平成22年度九州都市教育長協議会第2回理事会	教育長	教育総務課
2月4日	都城市青少年健全育成市民大会及び家庭教育振興大会	全委員	生涯学習課
2月5日	市壮年連協市長・教育長と語る会	教育長	生涯学習課
2月7日	平成22年度作品収集委員会	教育長	美術館
2月15日	五十市地区公民館建設工事安全祈願祭	教育長	生涯学習課
2月17日	都城市小・中学校教育論文表彰式	全委員	学校教育課
2月21日	都城市育英会理事会	教育長	学校教育課
2月22日	第5回市町村教育長連絡協議会支部長会	教育長	教育総務課
2月23日	教育研究所閉所式	全委員	学校教育課
2月26日	都城少年少女発明クラブ閉講式	教育長	教育総務課
2月27日	庄内小学校創立140周年記念式	教育長	学校教育課
3月2日	第6回都城市小中学校校長会	教育長	学校教育課
3月5日	平成22年度都城市社会教育振興大会	全委員	生涯学習課
3月12日	都城市小学生読書感想文コンクール表彰式	教育長	図書館

月 日	参加行事・研修等名	参加教育委員名 (教育長を含む)	担当課
3月17日	中学校卒業式	全委員	学校教育課
3月24日	小学校卒業式	全委員	学校教育課
3月26日	第24回都城弓まつり全国弓道大会開会式	教育長	スポーツ振興課
3月30日	平成22年度退職校長等辞令交付式	教育長	学校教育課
3月31日	市職員退職辞令交付式	教育長	職員課

### ■その他教育委員の活動に対する教育委員の自己・点検評価

#### 【行事への参加について】

- 各課・館、特に生涯学習課をはじめ、市民参加の行事にはできるだけ参加して情報を交換したい。また、その体験を一人でも多くの市民にPRして、行事の発展のために努力する役割もあると思う。図書館、美術館、都城島津邸に出かける度に何らかの発見がある。文化財課、給食センター等への訪問の機会を期待する。
- 口蹄疫のため上半期の会合等は中止されたが、終息後は都合のつく限り各会合に参加し、多くの方々と接する機会に恵まれた。今後も教育委員会13課・館の企画による会合には教育委員として積極的に出会い、市民の声に耳を傾けていきたいと考えている。
- 卒業式、入学式、体育祭、運動会等では、来賓として参加するだけでなく、PTA、地域の方や先生方との意見交換を心がけたい。
- 教育委員が出席しなければならない行事の開催日時を最低1ヶ月前に全て知りたいと希望する。直近になっての案内では、仕事の関係でやむを得ず出席できないケースが多くなり、申し訳なく思っている。

#### 【学校訪問について】

- 学校訪問についての反省会はようやく実現したが、有用であった。時間的な制約もあるが、諸行事活動をより実効性のあるものとするため、それぞれの反省、チェックが必要と考える。
- 学校訪問では、児童・生徒、教職員のソフト面と学校を取り巻く環境等のハード面の実態の一部を知ることができた。改善できることについては、担当課・館長に連絡し対応できた。

#### 【活動の原点について】

- 本市の子どもたちの幸せのため、本市市民の文化、スポーツ面の充実のためという初心を活動の原点とすることが重要であると考えている。

# 平成22年度 都城市教育委員会の自己点検・評価シート その2

## 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

### (1) 学校教育の充実

#### ① 心の教育の推進

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
スクールアシスタント事業 (学校教育課)	不登校児童生徒へのきめ細かな対応と児童生徒の自己指導能力を育成する。 学校教育活動や学校と家庭地域社会との連携を支援する。 ■事業期間(平成14年度～終期未定)	教職経験者や地域の人材の中から市教委が委嘱し、学校教育活動の支援等のため、市内中学校に派遣する。 (スクールアシスタント～6名、回数～1校あたり90日勤務、時期～通年) 22年度予算額:3,213千円 【事業の効果】生徒、保護者、教師からの相談に加え、問題児童生徒の家庭訪問等を積極的に行うことで、個に応じた対応が期待できる。ひいては、不登校の早期発見、対処に大きく寄与している。 【成果指標】平成22年度不登校児童生徒の数を1割減らす。	市内8校の中学校に、スクールアシスタント6名を配置し、不登校生徒宅への訪問や、学級に入れない生徒の相談や悩みごとの解決に積極的に取り組んだ。 5 平成22年度不登校児童生徒は、125名で前年度より26名の減となった。不登校の背景にある原因については、社会情勢、経済・疾病等の問題が、家庭の状況と複雑に絡み、問題解決には時間を要する。そのような中、本事業の取り組みは、将来的な問題解決の一助となるものであり、学校における期待とそのニーズは非常に高い。 22年度決算額:3,187千円
青少年育成センター運営費 (学校教育課)	青少年の問題行動や非行の未然防止や関係機関との連携を推進し、青少年の健全育成を図る。 ■事業期間(昭和45年度～終期未定)	・青少年育成センター 育成センター長1名、教育相談員4名 ・少年補導委員約180名に委嘱し、毎月定期的「巡回活動」を実施する。 ①益地まつり、花火大会等の特別補導を実施する。 ②毎月第1土曜日「少年の日」の広報活動を実施する。 22年度予算額:5,784千円 【事業の効果】教職員・PTA・ボランティアによる地域の取り組みであり、その目的は不良行為の撲滅ではなく、戻守り活動を通じての未然防止である。 【成果指標】補導の目的が、視覚的な不良行為の未然防止となっているため、教値による目標設定は困難である。	少年補導員180名を市内の中学校区ごとに班編成で配置し、児童生徒を対象に帰宅指導及び定期巡回を実施し、非行の未然防止に努めた。平成22年度実績としては、帰宅指導を中心に、420件の声かけを行った。また、毎月第1土曜日「少年の日」の広報活動や不定期の街頭キャンペーンを行い、各家庭での青少年の健全育成を強く呼びかけた。 5 22年度決算額:5,755千円
不登校児童生徒適応指導教室事業 (学校教育課)	不登校の状態にある児童生徒の原籍学校への復帰対策として、訪問・通級による指導・助言を行う。 ■事業期間(平成15年度～終期未定)	不登校問題に対応するため、適応指導教室(ウエルネス・スプリング教室)における継続的な活動や様々な体験活動を通じた適応指導による、学校復帰のための支援を行う。 教室:コミュニケーションセンター内、教育相談員4名兼務 22年度予算額:1,673千円 【事業の効果】市民からの教育相談と協議できるメリットがあり、その意味では、即応性に富んでいる。また、適応指導教室においては不登校児童生徒の原籍校復帰に向けて子供の特性を分析し、保護者との情報交換の際に効果を発揮している。 【成果指標】通級生10割復帰。	いじめや自身の心理的理由から不登校となった児童生徒を対象とした適応指導教室を開校し、心のケアを中心に問題解決に努めた。平成22年度は延べ15名の生徒が通級し、内9名が原籍校復帰を果たした。通級生全員の原籍校復帰を目標としていたが、全員の復帰が果たせなかった。 不登校問題の解決は、原因や背景の理解のみでは解決しない。必要な関係機関が、場合によっては長い時間を要する。引き続き、根気よく通級制への働きかけが必要である。 4 22年度決算額:1,590千円

### ② 教育内容の充実

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
総合的な学習支援事業 (学校教育課)	各学校毎の創意工夫を生かした特色ある教育活動を、経費面で支援する。 ■事業期間(平成14年度～終期未定)	全小・中学校の「総合的な学習の時間」の学習活動に要する経費(講師謝金、郵便料)を支援する。 平成22年度予算額:638千円 【事業の効果】総合的な学習の時間を通して、各学校が創意工夫し、特色のある教育、特色のある学校づくりを積極的に展開することができる。 【成果指標】数値で表すことは困難であるが、事業内容が多岐にわたるため、いろいろな角度から「生きる力」を育むことができる。	外部講師等(小学校41人・2団体、中学校10人・1団体)を招聘することにより、総合的な学習の時間を通じて、各学校が創意工夫し、特色ある教育、特色ある学校づくりを積極的に展開できた。 小学校・米(もの)作り体験、ふるさと教育、福祉教育体験や講話 中学校・性教育、キャリア教育、福祉教育等の体験や講話 22年度決算額:300千円 5

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
児童生徒健全育成事業 (学校教育課)	児童生徒の健全育成を図るため、教育相談活動、教育委員会会務奨励賞表彰、諸団体への支援等を行う。 ■事業期間(平成15年度～終期未定)	・教育相談室・幼児・青少年とその保護者及び教師を対象に諸々の相談業務を実施する。 ・教育委員会会務奨励賞・善行・体育・文化部門の児童生徒の表彰をする。 22年度予算額:8,360千円 【事業の効果】教育相談について、状況に応じ関係機関への転送を行うなど、専門機関としての体制が整っている。 【成果指標】非行報告の前年度1割減を目指す。	5 「少年の休日」や教育相談室を固執するためのポスター・チラシを作成し、学校及び家庭での活用を通じて意識の高揚を図った。教育相談室の利用については、述べ414名の相談を行った。非行報告件数は、6件であった。また、教育委員会会務奨励賞表彰については、市内の小・中・高校生を対象に、善行部門16個人、9団体、体育部門4個人、1団体、文化部門4個人、2団体の表彰を行った。 22年度決算額:8,048千円
奨学金 学校教育課(各支所教育課)	向学心に富み学業優秀で、経済的に修学困難な者に奨学金を給付または貸与することにより、有用な人材を育成する。	・高校生、高等専門学校生 月額8,000円(給付)、月額10,000円(無利子貸与) ・大学生、短期大学生、専門学校生 月額25,000円(無利子貸与) ・貸与終了6か月から返還開始 平成22年度予算～15,620千円 【事業の効果】修学困難な学生が奨学金の給付・貸与を受けて、高校、大学等で修学できる。 【成果指標】高校生等給付45名、高校生等貸与45名、大学生等貸与50名	5 平成22年度は、奨学金の給付・貸与を受けて71名の生徒が高校・高等専門学校で修学した。また、奨学金の貸与を受けて38名の学生が大学・短大・専門学校で修学した。 22年度決算額:15,620千円
都城市就学援助 (学校教育課)	経済的理由により、就学困難な児童・生徒の保護者に対して、学用品費等必要な援助を行う。 (学校教育法に基づく制度)	・申請・保護者から提出された「就学援助費受給申請書」に基づき、「就学援助受給世帯票」に校長及び担当民生委員・児童委員の所見を記入する。 ・認定:就学援助規則第2条に定める資格に該当することを確認したうえで、世帯票における所見を考慮するとともに、申請書の内容を審査し認定を行う。 ・学用品費・給食費・医療費等の援助を行う。医療費については、医療券を交付し、治療にあつた医療機関へ、要保護は10割、準要保護は3割の医療費を支払う。 平成22年度当初予算～132,442千円 【事業の効果】義務教育の円滑な実施及び児童生徒が安心して就学することができ、 【成果指標】経済的理由により就学困難なすべての児童生徒の保護者に対して学用品費等を支給する。	5 認定者総数 小学校:1,091名 中学校:700名 法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利があり、就学援助制度は有効な手段である。認定基準に沿って適正な執行に努めている。 22年度決算額:127,696千円
教師用教科書指導書購入事業 (学校教育課)	教師が教科書・指導書を用いて、教材開発や指導方法の工夫を実践することにより、効果的・効率的に授業が行えるよう、教科書・指導書を給付する。	小中学校の教師用教科書・指導書及び初任者研修に伴う初任者指導教員等用教科書・指導書を給付する。 平成22年度予算～5,460千円 【事業の効果】教科書・指導書を用いて授業を行うことができるため、児童生徒が等しく教育を受けられる。 【成果指標】全小中学校に教科書・指導書を給付する。	5 平成22年度実績 小学校 1,275冊 4,824,125円 中学校 167冊 679,133円 都城市立の全小中学校に教師用教科書指導書給与することで、全小中学校の教師が教科書・指導書を用いて給付を行うことができるため、児童生徒が等しく教育を受けられる。 平成22年度決算額:5,304千円
小学校体育連盟運営費補助金 (学校教育課)	小学校体育連盟へ運営費を補助する。 ■事業期間(平成5年度～終期未定)	小学校体育連盟の運営組織の強化、指導体制の確立及び指導者の育成に努める。 22年度予算:933千円 【事業の効果】児童の体育・スポーツの振興 【成果指標】競技力の向上及びスポーツの底辺活動の拡大	5 小学校体育連盟の運営費の補助を行うことにより、その活動(水泳教室及び陸上教室など)を支援し、市内小学生の体力向上を図った。 水泳教室は5・6年生(3,240人)を対象に、市内12会場で午前中のみ実施した。陸上教室は例年10月に市内6年生(1,570人)を対象に1日実施した。 22年度決算額:933千円

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
スポーツ大会派遣費(県大会) (学校教育課)	地区大会において優秀な成績をおさめた生徒の県大会に要する交通費を補助する。 県大会において優秀な成績をおさめた生徒の九州大会・全国大会に要する交通費・宿泊費を補助する。 ■事業期間(平成14年度～終期未定)	・地区大会(6月・10月予定) 中学校総合体育大会(夏・秋)、陸上競技大会(夏・秋)、水泳大会、中学校駅伝競走大会 ・県大会(7月・8月・11月予定) 県中学校総合体育大会(夏・秋)、陸上競技大会(夏・秋)、水泳大会、県中学校駅伝競走大会 ・九州大会(8月・12月予定) 九州中学校体育大会、陸上競技大会(夏・秋)、九州中学校駅伝競走大会 ・全国大会(8月予定) 全国中学校体育大会 22年度予算:3,408千円 【事業の効果】生徒のスポーツ大会派遣に要する経費の保護者負担軽減 【成果指標】県大会・九州大会・全国大会の遠征費補助	中学校総合体育大会で優秀な成績を取った生徒の県大会・九州大会・全国大会に要する交通費及び宿泊費(九州・全国大会のみ)を補助することにより、保護者の負担軽減を図った。 22年度決算額 ・県大会(夏) 659人 989千円 ・県大会(秋) 707人 1,061千円 ・駅伝競走大会 16人 48千円 ・九州大会 97人 1,272千円 ・全国大会 2人 25千円 22年度決算額総額 3,395千円
中学校体育連盟運営費負担金 (学校教育課)	中学校体育連盟へ運営費負担金として補助する。(県中学校体育連盟負担金、都城地区中学校体育連盟負担金) ■事業期間(平成5年度～終期未定)	中学校体育連盟の運営組織の強化、指導体制の確立及び指導者の育成に努める。 平成22年度予算:1,276千円 【事業の効果】生徒の体育・スポーツの振興 【成果指標】競技力向上及びスポーツの底辺活動の拡大	中学校体育連盟の運営費の助成を行うことにより、その活動を支援し、市内中学生の体力向上等を図った。中体連の主な活動には、総合体育大会(夏・秋)、水泳大会、陸上競技大会、駅伝競走大会などがある。 22年度決算額 ・県中体連負担金:134千円 ・都城市中体連負担金:1,142千円
教育用コンピュータ事業 (学校教育課)	すべての学級のあらゆる授業において教員及び児童・生徒がコンピュータやインターネットを活用できる環境を整備する。 ■事業期間(昭和62年度～終期未定)	・市内全小中学校で36人に1人体制を目指し、コンピュータの配置・更新を計画的に行なう。 ・教師用コンピュータの配置について1人に1人体制を目指す(目標25年3月)。 22年度予算:38,489千円(小学校)、18,545千円(中学校) 【事業の効果】情報化社会に柔軟に対応できる児童・生徒を育成できる。 【成果指標】全学校の様々な教室で、パソコン等の機器を利用した授業ができるよう機器を整備する。	目標に対して教育用コンピュータは5.6人に1台の状況である。 また、パソコンの耐用年数が5年であるのに対して7年目になる学校が下記のとおりであるので早急に更新する。 小学校:明道、南、大王、上長飯、祝吉、明和、高崎 中学校:妻ヶ丘、祝吉、沖水、五十市、夏屋、高崎 平成22年度決算額 38,436千円(小学校)、17,834千円(中学校)
学校インターネット基盤整備事業 (学校教育課)	インターネット教育・ICT教育推進のため、通信回線環境の整備・保守を行う。 ICT教育・情報コミュニケーション技術を活用するための教育 ■事業期間(平成13年度～終期未定)	「県教育ネットひまわり」を利用したインターネット教育・ICT教育を行うための通信回線等の整備・保守点検を行う。(終期未定) 22年度予算:4,573千円(小学校)、2,371千円(中学校) 【事業の効果】学校による情報管理能力を高めている。 【成果指標】全学校に高速インターネット接続環境を提供する。	全小・中学校のインターネットの通信回線の整備・保守を行った。 22年度決算額:4,559千円(小学校)、2,370千円(中学校) ※主にケーブルテレビの回線使用料
都城市学校保健会運営費補助金 (学校教育課)	健康で豊かな児童・生徒を育成するため、健康管理及び保健教育の円滑な実施並びに学校保健に関する調査・研究の促進を図る。 ■事業期間(平成18年度～終期未定)	・専門部費 ・給食主任・養護教諭・保健主事・学校歯科医・学校薬剤師各 ・大会派遣費 ・学校保健大会費 学校保健・安全に関する諸問題について研究会を開催する。(夏季休業中予定、総合文化ホール予定)教職員、PTA、医師会、歯科医師会、薬剤師会、各幼稚園、各保育園関係者を対象に学校保健功労者表彰、特別講演のほか各学校の学童検診統計等を発表。 22年度予算:990千円 【事業の効果】児童・生徒を取り巻く環境が多様化・複雑化している中、専門部会が学校保健衛生・健康管理面の課題の調査・研究に取り組み、学校保健の向上が図られた。 【成果指標】専門部会での調査・研究が充実し、市全体の保健衛生・健康管理面の充実強化が図られた。	専門部費は、給食主任・養護教諭・保健主事・学校歯科医・学校薬剤師各 部会から補助金の申請があり、389千円支出した。専門部の活動は学校保健関係の調査や研究を行い、保健衛生・健康管理面の向上につながっている。 また、口蹄疫感染拡大防止のため学校保健大会を中止した。 22年度決算額:395千円

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
ALT活用事業 (学校教育課)	ALTの語学指導を通して、語学向上並びに豊かな国際感覚を身につける機会を提供する。 ■事業期間(平成15年度～終期未定)	小学生に特に話す・聞くことを中心とした音声によるコミュニケーション能力の育成や豊かな国際感覚を身につけさせるため、ALT(外国語指導助手)を学校に派遣する。 ALT6名、小学校5・6年生全学年、中学校各学級へ年間11回派遣予定 22年度予算:27,080千円 【事業の効果】ALTとティームティーチングによる授業を実施することにより、英語を聞くことに慣れ親しんだり、話そうとする能力を育成することができる。 【成果指標】小学校5・6年生全学年、中学校各学級へ年間11回派遣する。	昨年度に引き続き金小・中学校へALT6名を派遣した。外国語学習への意欲を高め、国際理解教育を推進した。各学級、年間11回～12回の派遣を行った。 外国語指導助手の訪問によって、「英語の授業が楽しくわかりやすい」、「ALTと会話ができるとき、英語を一生懸命勉強しようという気持ちになった。」などの声も聞かれており、英語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に効果があった。 22年度決算額:27,034千円
学力向上対策事業(エキスパートティチャー事業) (学校教育課)	優れた指導力を有するエキスパートティチャーを認定し、視察研修や授業公開を通して、優れた指導技術を市内の教職員に普及させる。	小・中学校全教科等12名任命する。 各学校における教員の指導力向上のために授業研修会、授業づくりワークショップ、授業相談セミナー等を開催する。 22年度予算:588千円 【事業の効果】教職員の指導力向上を図る。 【成果指標】年40回の授業公開またはセミナー等を開催する。	小学校(国語、社会、算数、理科、生活、体育、外国語活動)、中学校(国語、理科)、小・中共同(道徳、音楽、図工・美術)の12名を任命した。 任命された12名のエキスパートティチャーは、授業研修会並びに授業づくりワークショップを一人2回ずつ行った。研修会には延べ465名が参加し、そのうち約90%が「授業改善のきっかけとなった」となったと答えており、市内教員の指導力向上に効果が上がった。 22年度決算額:580千円
小学校3・4年生用社会科副読本 読本・評面問題作成事業 (学校教育課)	小学校3・4年生用社会科副読本・評面問題作成事業 (学校教育課)	学習指導要領の改訂に伴い、小学校3・4年生用の社会科副読本(ワークテキスト含む)の編集及び印刷を行う。全面改訂のため3・4年生に配付し、社会科副教材として2年間使用する。 22年度予算:7,004千円 【事業の効果】地元の産業や地理等を十分活用することにより郷土理解が深められる。 【成果指標】都域の伝統や文化にかかわる内容及び産業について詳しく学ぶことができ、郷土理解につながる。	10名の社会科副読本編集委員により10回の編集委員会を開催し、研究・協議を行った。研究・協議後、印刷を業者に依頼し、社会科副読本3,480冊を印刷した。本年度は学習指導要領全面改訂のため、社会科副読本は、金小学校3・4年生に配付した。 22年度決算額:6,958千円
特別支援教育推進事業 (学校教育課)	障がいのある児童・生徒が支障なく学校生活及び学習活動を送ることができるようにする。 ■事業期間(平成14年度～終期未定)	市内の小・中学校に在学する障がいのある児童・生徒に対し、生活介助または学習支援を行う特別支援教育支援員を派遣する。 22年度予算:44,433千円 【事業の効果】障がいのある児童・生徒やその他の児童・生徒が安全・安心に学校生活及び学習活動を送ることが出来る。 【成果指標】支援員配置を希望する全小・中学校に配置する。	支援員配置を希望した小中学校24校に対して延べ29人の支援員を配置した。 22年度決算額:43,895千円
都城市音楽大会参加費補助金 (学校教育課)	県、九州、全国音楽大会参加によりレベルの向上を図る。 ■事業期間(平成8年度～終期未定)	各種音楽大会に参加する市内の小、中学校の児童及び生徒の後援会等に対し補助金を交付する。 22年度予算:2,140千円 【事業の効果】教育振興につながり、保護者の経済的負担は軽減される。 【成果指標】音楽教育の振興。	音楽大会に出場し、申請のあった小・中学校16校(小学校3校、中学校13校)の児童生徒の後援会に対し補助金を交付した。うち西小学校は昨年度に引き続き「第29回全日本小学校バンドフェスティバル全国大会」に出場し、銀賞を受賞した。 22年度決算額:小学校1,112千円、中学校489千円。
学校評価推進事業 (学校教育課)	学校教育の質を保証し、その向上を図ったり、学校の説明責任を明確化して、地域ぐるみで教育の推進を目指す。 (学校教育法施行規則66条～68条)	教育の質を高めるために、学校の自己評価に加え、自己評価結果を「学校関係評価委員会」に評価させ、その結果と改善策を公表していく。 平成22年度予算:888千円 【事業の効果】学校関係者の質の向上及び地域ぐるみの教育の推進を図る。 【成果指標】自己評価及び学校関係者評価を100%実施・公表するとともに、全校の平均評価が3.0以上となる。	口蹄疫の影響で、学校評価の進捗が遅れたり、学校関係者評価委員会の実施回数が計画よりも少なくなった学校があった。しかし、自己評価と学校関係者評価の保護者・地域への公表と、市教育委員会への報告は100%であった。評価については、学校ごとに評定の仕方が異なるため平均として出せないが、おおむね平均以上の評定であった。次年度はこの点についても改善したい。 22年度決算額:642千円
学校図書館充実事業 (学校教育課)	学校図書館を充実することによって、多様な教育活動を推進する。	文部科学省「学校図書館図書標準」の達成に向けて図書を整備を計画的に行う。 22年度計画 小学校:29校、中学校:13校 平成22年度予算:19,632千円 【事業の効果】魅力的な学校図書館の整備・充実が図られることで、子どもの知的活動が推進される。 【成果指標】図書標準達成校小学校13校、中学校40	22年度図書標準達成校 小学校:18校、中学校:8校 「学校図書館図書標準」は学級数によって標準冊数が定められているが、この学級数の増え方に誤りがあり、算出すべき学級数が増えただため、整備すべき標準冊数も増えることになり、計画どおりに達成することができなかった。 22年度決算額:19,434千円

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
学校図書サポーター配置事業 (学校教育課)	小学校37校に学校図書サポーターを派遣し、児童の読書活動の支援、司書教諭の業務支援を行わせるもの。	市内37校を7ブロックに分け、7名の図書サポーターを各ブロックに配置し、学校図書館の環境整備、図書の紹介や読み聞かせの活動、読書活動に係る授業サポーターを行う。 平成22年度予算～4,696千円 【事業の効果】学校図書館の整備と図書好きな児童の育成に資する。 【成果指標】年間5%ずつの貸出冊数の向上を図る。	6月より市内37校を7ブロックに分け、7名の図書サポーターを各ブロックに配置した。サポーターは、校長の考案に即し、学校図書館の環境整備、読み聞かせの活動、読書活動に係る授業サポーターを行った。 その結果、子どもが学校図書館に行く回数が増えたとともに、一人当たりの貸出冊数も昨年度比、24%増加した。 22年度決算額: 4,498千円
義務教育教材整備事業 (学校教育課)	教育環境の質向上のために教材備品を整備する。	児童生徒の学習活動の能率・効率の向上のために教材備品の整備充実を図る。 平成22年度予算～50,220千円 【事業の効果】質の高い教育の推進を図る。 【成果指標】耐用年数の過ぎた教材備品の更新及び新学習指導要領の実施に必要な教材備品の整備を図る。	小・中学校ともに学習指導要領の移行期間にあたるため、それらに付随する備品の購入が目立った。中でも、中学校は平成24年度より武道が必修化となるため、柔道量及び武具等の購入が多く、教育環境の質の向上につながった。また、アナログ放送の終了に伴い、アナログテレビの廃棄をおこなった。 22年度決算額: 小学校29,384千円、中学校21,409千円。

### ③安心安全な学校給食の提供と食育の推進

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
郁城市学校給食会補助金 (学校給食課)	学校給食を円滑に運営し、給食費の未納問題についてその対策にあたる。 ■事業期間(始期不明～終期未定)継続	<p>郁城市学校給食センターは、食費が多いため、給食費の請求・取納・給食物資の発注・支払いの業務を選任の職員で行い、効率的かつ低コストな事務処理を図る。</p> <p>悪質な滞納者に対して、専門の職員で給与差押え等の法的手続きを行い、滞納給食費の解消に努める。 22年度当初予算額～6,650千円</p> <p>【事業の効果】給食費の管理、給食費の未納問題に専門的に従事することで円滑な運営を図る。 【成果指標】円滑な給食の運営と未納額合計の対前年比5%減を目指す。</p>	<p>郁城市学校給食センターは、食費が多いため、給食費の請求・取納・給食物資の発注・支払いの業務を選任の職員で行い、効率的かつ低コストな事務処理が図られた。</p> <p>悪質な滞納者に対して、専門の職員で給与差押え等の法的手続きを行い、滞納給食費の解消に努めた。</p> <p>また、平成22年度は、子ども手当窓口支給時に学校給食費の納入相談を行い、未納金へ充当をした。 未納額合計 対前年比 7%減 22年度決算額～6,650千円</p>

④教育環境の整備 充実

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
<p>公立学校施設整備事業 (教育総務課)</p>	<p>校舎・体育館の老朽化に伴い改築、大規模改造及び耐震補強することにより、機能の向上及び安全性の確保を図る。また、構造耐震指標(Is値)0.7以上の耐震性能を有する学校施設とし、安全、安心な教育環境を整備する。 ■事業期間(平成21年度～平成28年度)継続</p>	<p>耐震化率の目標～平成23年3月末83.0% (校舎改築) ・五十市中学校(3F1棟) 事業内容:建築主体・電気・管工事 平成22年度当初予算額1,096,299千円 ・山之口小学校(2F1棟) 事業内容:建築主体・電気・管工事 平成22年度当初予算額77,050千円 (大規模改築) ・山之口小学校(2F1棟) 事業内容:建築主体・電気・管工事 平成22年度当初予算額96,959千円 ・南小学校(2F3棟) 事業内容:実施設計 平成22年度当初予算額31,977千円 (耐震補強)・山田小学校(2F1棟) 事業内容:実施設計 平成22年度当初予算額4,952千円 (躯体改築) ・上長飯小学校 事業内容:樹木移植 平成22年度当初予算額3,000千円 ・笛水小中学校 事業内容:実施設計 平成22年度当初予算額12,642千円 平成21年度事業継続 (耐震補強)・高城小学校(2F2棟) 事業内容:耐震補強工事(ハイブリッド耐震補強工法) 平成22年度当初予算額112,510千円 (躯体改築)・庄内小学校 事業内容:建築主体・電気・管工事 平成22年度当初予算額389,643千円 【事業の効果】安全・安心な教育環境の実現を図るとともに、快適な教育環境を実現する。 【成果指標】平成22年4月現在で耐震化率81.4%であるが、児童・生徒の安全・安心な学校環境を整備するために平成27年度までに耐震化率100%を達成する。</p>	<p>以下のように計画どおり事業を実施し、学校施設の機能向上・回復を図った。 平成22年度事業 (校舎改築) ・五十市中学校(3F1棟) 事業内容:建築主体・電気・管工事 平成22年度決算額996,076千円 ・山之口小学校(2F1棟) 事業内容:建築主体・電気・管工事 平成22年度決算額61,594千円 (3月補正)339,740千円、繰越290,012千円 (大規模改築) ・山之口小学校(2F1棟) 事業内容:建築主体・電気・管工事 平成22年度決算額79,415千円 ・南小学校(2F3棟) 事業内容:実施設計 平成22年度決算額13,641千円 (3月補正)980,210千円、繰越998,210千円 (耐震補強) ・山田小学校(2F1棟) 事業内容:実施設計 平成22年度決算額3,339千円 (3月補正)103,458千円、繰越104,958千円(躯体改築) ・上長飯小学校 事業内容:樹木移植 平成22年度決算額2,992千円 ・笛水小中学校 事業内容:実施設計 平成22年度決算額2,891千円 (3月補正)249,265千円、繰越259,016千円 (耐震補強) ・高城小学校(2F2棟) 事業内容:耐震補強工事(ハイブリッド耐震補強工法) 平成22年度決算額110,540千円 (躯体改築)・庄内小学校 事業内容:建築主体・電気・管工事 平成22年度決算額300,316千円 ※平成15年から18年にかけて耐震診断(第2次診断の予備診断)を実施した学校施設のうち、構造耐震指数(Is値)が0.7以上あり、耐震性が有ると判定していた建物59棟について、第2次診断及び耐震診断等判定委員会の最終判定を行い、耐震性の有無を確定するまでは耐震性が有る建物に含められなくなったため、平成22年4月及び平成23年4月の耐震化率をそれぞれ81.4%を62.2%に、83.0%を63.8%に修正するものである。</p>
<p>学校プール改修事業 (教育総務課)</p>	<p>プールの改修により、生徒の安全確保と教育環境の充実を図る。 ■事業期間(平成22年度～平成23年度)継続</p>	<p>平成22年度事業 ・五十市小学校プール 事業内容:実施設計 平成22年度当初予算額1,500千円 【事業の効果】漏水防止による水道使用料等の減額が見込める。また、児童の学校施設における事故防止を図る。 【成果指標】改修が必要な7校のプールを整備する。</p>	<p>五十市小プールは、昭和35年に建設したものであり、底盤の亀裂や塗装の剥がれなどの老朽化による防水性・安全性等の機能低下があり、防水塗装による改修を計画し、平成23年度に工事を行い教育環境の向上を図る予定である。 平成22年度事業 ・五十市小学校プール 事業内容:実施設計 平成22年度決算額1,155千円</p>

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
<p>市単独施設整備事業 (教育総務課)</p>	<p>校舎防水等の改修工事や保健室シャワー設置等の新規工事により、学校施設の充実を図るとともに、児童生徒の安全確保と学校施設の機能向上を図る。 ■事業期間(平成22年度～平成23年度)継続</p>	<p>平成22年度事業 ・保健室シャワー設置(小学校23校、中学校10校) ・笛水小中学校一貫校整備2期工事 平成22年度当初予算額 46,000千円</p> <p>平成21年度事業繰越(地域活性化・きめ細かな交付金) ・校舎防水工事(祝吉小、菓子野小、乙房小) ・御池小学校屋体屋根改修工事 平成22年度当初予算額29,000千円</p> <p>・高崎中学校下水道接続工事 平成22年度当初予算額5,314千円</p> <p>・太陽光発電設置工事(志和地中、庄内中、西中) 平成22年度当初予算額40,950千円</p> <p>【事業の効果】安全・安心な教育環境の実現を図るとともに、快適な教育環境を実現する。 【成果指標】学校施設の諸機能の充実に向けて、優先度で年次的に整備する。</p>	<p>保健室シャワー設置等の新規工事を実施し、学校施設の充実を図るとともに、児童生徒の安全確保、学校施設の機能向上に努めた。 また、7月の豪雨災害、1月の新燃岳降灰災害には適時対策に努めた。 平成22年度事業 (当初) ・保健室シャワー設置(小学校19校、中学校8校) ・笛水小中学校一貫校整備2期工事 (工事内容:管理諸室の空調整備及び多目的ホールの改装等) (9月補正18,079千円) ・庄内小擁壁工事 平成22年度決算額60,049千円</p> <p>(1月専決71,541千円) ・学校施設降灰除去事業 平成22年度決算額51,436千円 (繰越18,440千円)</p> <p>平成21年度事業繰越(地域活性化・きめ細かな交付金) ・校舎防水工事(祝吉小、菓子野小、乙房小) ・御池小学校屋体屋根改修工事 平成22年度決算額37,544千円</p> <p>・高崎中学校公共下水道接続工事 平成22年度決算額5,275千円</p> <p>・太陽光発電設置工事(志和地中、庄内中、西中) 平成22年度決算額41,738千円</p>
<p>教育総務管理費 (小・中学校工事請負費) (教育総務課)</p>	<p>全小・中学校の学校施設の維持管理において、学校からの要望等を基に、計画的にかつ、優先度で補修工事等を行い、学校施設の機能回復を図る。 ■事業期間(永年)継続</p>	<p>平成22年度事業 ・小学校管理運営事業 ボール塗装補修、サッシ改修、屋根防球ネット設置、屋体換気扇設置、図書室空調設置等 平成22年度当初予算額 10,500千円</p> <p>・中学校管理運営事業 屋体照明改修、教職員住宅解体、教育相談室空調設置、図書室空調設置等 平成22年度当初予算額 7,400千円</p> <p>【事業の効果】安全・安心な教育環境の実現を図るとともに、快適な教育環境を実現する。 【成果指標】学校施設の諸機能の充実に向けて、優先度で年次的に整備する。</p>	<p>多様な学校施設改修工事を実施し、児童生徒の安全確保、学校施設の機能回復に努めた。 平成22年度事業 (小学校) 五十小小図書室空調設置、高崎小プール便所公共下水道接続、祝吉小校舎サッシ改修等 平成22年度決算額10,193千円</p> <p>(中学校) 中郷中図書館空調設置、妻ヶ丘中教育相談室空調設置、西中運動場排水工事等 平成22年度決算額6,723千円</p>
<p>義務教育用・椅子整備促進事業(教育総務課)</p>	<p>総合支所独自の補助金(ランドセル・教育用品購入助成、自転車通学用ヘルメット、修学旅行)が平成20年度で廃止になったことから、これを原資として総合支所管内の学校を優先して整備を図るの。 ■事業期間(平成21年度～平成25年度)継続</p>	<p>平成22年度事業 新JIS規格にそぐわないもの、あるいは使用限度を越えた児童・生徒用を更 新し、教育環境の整備充実を図る。 小学校(笛水小、高崎麓小) ・児童用机25脚、児童用椅子25脚 中学校(高城中、笛水中) ・生徒用机225脚、生徒用椅子225脚 平成22年度当初予算額 3,748千円</p> <p>【事業の効果】児童、生徒用机椅子を整備することにより、学習環境の向上につなげ児童の学習力の向上を図る。 【成果指標】旧JIS規格の児童、生徒用机椅子約8,000セットを、3ヶ年計画により全て新JIS規格に統一する。総合支所管内の旧JIS規格の児童・生徒用机、椅子を年次的に新JIS規格に入れ替えていく。</p>	<p>児童生徒用机・椅子を整備し、教育環境の充実を図った。 平成22年度事業 小学校(繩瀬小) ・児童用机58脚、児童用椅子58脚 中学校(笛水小中、山之口中、有水中、高崎中) ・生徒用机584脚、生徒用椅子584脚 平成22年度決算額 3,638千円</p>

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
都城市立小中学校PTA補助金 (教育総務課)	PTA雇用職員の雇用に必要な経費を補助し、PTAの円滑な運営及び保護者の負担軽減を図る。	・補助対象～本庁管内のみ小学校19校、中学校10校。(西岳小、吉之元小、夏尾小、御池小、西岳中、夏尾中を除く) ・1校当たり80万円を補助。 平成22年度当初予算額～23,200千円 【事業の効果】PTAの円滑な運営及び保護者の負担軽減を図る。 【成果指標】PTA雇用職員の賃金等を補助する。	本庁管内の小学校19校(明道小、南小、大王小、東小、上長飯小、五十市小、西小、今町小、沖水小、祝吉小、志和池小、丸野小、庄内小、菓子野小、乙房小、梅北小、安久小、川東小、明和)及び中学校10校(姫城中、小松原中、妻ヶ丘中、五十市中、祝吉中、沖水中、志和池中、庄内中、中郷中、西中)より提出された事業計画書と予算書を基に1校当たり補助金80万円を補助した。 22年度決算額 23,200千円

## (2)生涯学習・社会教育の充実

### ①生涯学習の機会と施設機能の充実

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
生涯学習機会づくり推進事業 ①生涯学習初級講座 (生涯学習課)	市民の生涯学習機会への参加を促進するため、初心者を対象にした趣味・教養講座を開設(委託)し、学習活動の動機付けを行い、学習者の増加を図る。	生涯学習初級講座の開設を委託する。 ・定員 1講座7人～20人程度 ・参加料 無料 ・会場 地区公民館等 ・開設数 4回ずつの講座(学習会)を38講座開設する ・委託先 「NPO法人きらりネット都城」 22年度当初予算額～ 984千円 【事業の効果】市民の学習への動機付けや学習意欲の拡大を図る。 【成果指標】講座終了後、学習を継続する新規のグループ数を15グループ誕生させる。	初心者を対象とする学習講座を開設し、市民の学習への参加を奨励・促進した。43講座の公募に対し、開設できたのは6割であったが、講座終了後も学習を継続する、10の学習グループが新たに誕生した。 -期日 平成22年9月～平成23年3月 -開設数 27講座(延343人) -講座内容 とんぼ玉作り、韓国語、英会話、詩吟、尺八、編み物 -社交ダンス、ステップ体操、ボール体操など -終了後、10グループが誕生したが目標数には届かなかった。 22年度決算額 627千円
生涯学習機会づくり推進事業 ②よか・余暇・学習ネットワーク事業 (生涯学習課)	多様な市民の学習ニーズに対応するため、いろいろな言葉に、少人数でも学習活動へ参加できるように指導者と学習者の仲介、情報提供を行う。	【よか・余暇・学習ネットワーク事業】(7人以上を原則として、一人1回500円の負担で、学びたいことを、市に登録されたボランティア指導者(謝金3,500円)から学ぶことができるシステム)を運営する「NPO法人きらりネット都城」へ事業費補助を行う。 ・よか・余暇・学習ネットワーク事業費補助 22年度当初予算額～ 4,100千円 【事業の効果】市民がいつでもどこでも「だれでもなんでも」学べる環境を図る。 【成果指標】「よか・余暇・学習ネットワーク」に参加するグループ数及び学習者数を5%増加させること(215グループ、1,660人)を目指す。	総合支所管内を含む全地区において、生涯学習の機会を提供する体制が整い、市民がいつでもどこでも「だれでもなんでも」学習できる環境を推進することができた。 また、「よか・余暇・学習ネットワーク事業」を担う生涯学習ボランティア指導者の登録・活用についても、NPO法人「きらりネット都城」と協働で実施することができた。 -期間 平成22年4月1日～平成23年3月31日 -グループ数 203グループ(H21年 218グループ) -学習者 1,554人(H21年 1,649人) -登録指導者 300人(H21年 295人) 22年度決算額 4,100千円

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
生涯学習出前講座推進事業 (生涯学習課)	市政または企業、組合その他の公共機関等に関する市民の理解を深めるとともに学習機会の充実及び市民参加の啓発を図るため、出前講座を行う。	市内の10人以上のグループ・団体の求めに応じて、無料で出前講座を行う。 ①ハロー市役所元氣講座(約80講座) ・市民の学習会に市職員を講師として派遣。 ②ハロー元氣講座(約35講座) ・市民の学習会に企業、組合その他の公共機関等の職員を講師として派遣。 22年度当初予算額～40千円 【事業の効果】 市民がいつでもどこでも「だれでも」学べる環境を整え、学習ニーズの喚起を図る。 【成果指標】 市民の利用にに対応できるよう、市役所で85講座程度、企業で30講座程度を確保する。	市民が主催する学習会に市職員、企業、公共機関等の職員を講師として派遣し、学習機会の充実、生涯学習によるまちづくりの推進と市民参加意識の啓発を図ることができた。 ①ハロー市役所元氣講座(80講座) 90件 4,095人 (H21年 79件、4,683人) ②ハロー元氣講座(29講座) 8件 398人 (H21年 9件、226人) 22年度決算額 16千円
教育集会所管理運営事業 (生涯学習課、高崎教育課))	市民に学習の場を提供し、人権教育及び交流を深める教育集会所の管理運営を行う。	教育集会所施設の管理運営とともに、人権啓発講座(ビデオ上映や講話等)や趣味の教室等を開設する。 ①広原教育集会所 ・昭和55年度完成、RC造2階建て、延床280㎡ ・周辺の5自治公民館の交流事業を支援 ・12講座を開設(受講料は無料。年間10回程度で終了後は自主教室へ移行)、参加者は人権啓発講座を受講する ②梅北教育集会所 ・昭和57年完成、RC造2階建て、延床280㎡ ・14講座を開設(受講料は無料。年間10回で、終了後は自主教室へ移行、参加者は人権啓発講座を受講する ・夏休み子ども人権講座の開催 22年度当初予算額～9,811千円 ③高崎教育集会所 ・昭和61年完成、鉄骨造1階建て、延床200㎡ ・4教室を開設(年間10回。受講料は7回まで無料。残り3回は受講生負担) 22年度当初予算 140千円 ④苗ヶ水教育集会所 ・昭和62年完成、鉄筋造1階建て、延床257㎡ ・3教室を開設(年間10回。受講料は7回まで無料。残り3回は受講生負担) 22年度当初予算 105千円 【事業の効果】人権啓発講座を実施することで人権意識の高揚を図る。 【成果指標】主催教室受講生に対し、人権啓発講座を年2回以上開催する。	人権問題に対する市民の理解と認識をより一層深め、社会教育活動の推進を図るために地域の実情に応じた各種学習(教室)及び人権講座を実施し、市民意識の高揚を図ることができた。 ①広原教育集会所 ・12教室、延参加者数 3,447人 ・その他の利用者(よか余暇学習、自主教室)数 2,705人 ・教育集会所成人講座(人権学習) 2回 136人 22年度決算額 4,728千円 ②梅北教育集会所 ・13教室、延参加者数 2,706人 ・その他の利用者(よか余暇学習、自主教室等)数 553人 ・教育集会所成人講座(人権学習) 3回 95人 ・夏休み子ども人権講座 12人 22年度決算額 4,838千円 ③高崎教育集会所 ・2教室、延229人参加 22年度決算額 70千円 ④苗ヶ水教育集会所 ・2教室、延120人参加 22年度決算額 70千円
コミュニティセンター管理運営 (生涯学習課)	生涯学習、社会教育の振興を図る施設として、維持管理経費の効率化と住民サービスの向上に努めるため指定管理者制度により管理する。	定員250人の集會室や36人の調理室、大小の研修室を備える施設で、平成18年度から指定管理者制度を導入している。 ・床面積 1,230㎡(RC造2階建て) ・昭和57年度竣工 ・指定管理者「NPO法人きらりネット都城・つやげん九州共同事業体」 ・指定期間 平成21年度～23年度(3カ年) 22年度当初予算額～9,089千円 【事業の効果】 指定管理者制度のもと、利用者により快適な環境を提供することで、市民の生涯学習・社会教育の意識や意欲の向上等につながる。 【成果指標】 指定管理者自らが設定した、年間利用者数5万人以上、利用者満足度75%(セルフモニタリング)以上を目指す。	指定管理者制度導入によって、サービス向上や経費削減の効果が得られ、かつ社会教育活動の場としての活用がなされ、公の施設の設置目的が達成された。 ・指定管理者「きらりネット都城・つやげん九州共同事業体」 ・指定期間 平成21年度～23年度(3カ年の2年目) ・利用者数 年間55,293人 (H21年 59,588人) ・モニタリング(平成23年3月25日実施)の結果 利用者満足度 部屋 75.8% 共用部分 68.9% 接客態度 66.0% 22年度決算額 8,994千円

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
五十市地区公民館建設事業 (生涯学習課)	生涯学習に対するニーズの多様化・高度化に対応する学習拠点として、更に地域住民の交流の場、地区住民による「協働のまちづくり」の拠点としての役割を担う複合的施設を建設する。	現在の五十市地区公民館は、昭和45年3月の建設で老朽化(築後40年)したため建て替えるを行う。新しい地区公民館は、成人式、会議、レクリエーション等で利用できる多目的ホール、避難所としての設備等を備え、全面ハリアフリー化された施設として新築する。 ・床面積 1,198㎡(RC造平屋建て) ・事業年度 平成22年度～平成23年度 ・総事業費 498,778千円 22年度当初予算額～ 184,009千円 【事業の効果】 利用者に住民に安全で快適な環境を提供することができる。 【成果指標】 完成前と比較して、施設利用者数の1割増を目指す。	五十市地区公民館建設工事に着手した。 ・工事請負費 180,595千円 敷地造成工事(17,097千円) 建築主体工事(123,816千円) 管工事(10,542千円) 空調工事(11,277千円) 電気工事(17,863千円) ・水道加入者負担金 735千円 22年度決算額 181,330千円

5

## ②社会教育の充実

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
少年教育推進事業 (生涯学習課)	ガールスカウトやユネスコ等、少年の健全育成のための団体活動を奨励援助する。	①ガールスカウト日本連盟宮崎県支部第13団 団員45名。 ②ガールスカウト日本連盟宮崎県支部第22団 本地地は山之口、会員20名。 ③都城ユネスコ協会 ユネスコ(国連教育科学文化機構)活動の啓発のほか、研修事業や九州大会参加等、会員15名。 22年度当初予算額 102千円 【事業の効果】 体験活動や奉仕活動、ホームステイ等特色のある活動を通して、青少年の健全育成を図ることができる。 【成果指標】 各団がそれぞれ独自の事業活動(内容)の維持、継続を目指す。	ガールスカウトについては、野外活動やホームステイを通して、人や自然とのふれあひ活動等の助成を行い、ユネスコ協会については、高校生を中心に、奉仕活動や日韓交流事業の実施、九州大会への参加等について支援を行った。 ①都城市ガールスカウト13団 (43人) 25千円 ②都城市ガールスカウト22団 (18人) 25千円 ③都城市ユネスコ協会 (15人) 52千円 22年度決算額 102千円

5

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
<p>子ども会等活動支援事業 (生涯学習課・山之口教育課・山田教育課)</p> <p>子ども会活動を普及促進することにより児童生徒の健全育成に寄与する。高崎地区は、未組織のため、育成会の組織化を図る。</p>	<p>子ども会活動を普及促進することにより児童生徒の健全育成に寄与する。高崎地区は、未組織のため、育成会の組織化を図る。</p>	<p>①市及び地区子ども会育成連絡協議会 小松原、妻ヶ丘、祝吉、五十市、沖水、志和池、高城の8地区129単位が加盟、子ども5,739人、大人2,588人 ②ジュニアリーダー教室の開設 育成会と子ども会のパイプ役として、中学生のリーダーを育成する。参加者を公募し、野外キャンプ等を含む年間10回開催。 ③子どもフェスティバルの開催 公募による小学生がイベントの企画運営を行う。ジュニアリーダーがサポートする。 ④山之口地区子ども会育成連絡協議会の開催 33単位、570人、リーダー研修会、研究大会、ジュニアリーダー育成事業等の開催 ⑤山田地区子ども会育成連絡協議会 30単位、525人、リーダー研修会、研究大会、ジュニアリーダー育成事業等の開催 ⑥高崎地区子ども会育成連絡協議会の再構築 22年度予算額 1,885千円 【事業の効果】 集団活動、体験活動による子どもの健全育成や地域活動の活性化を図る。また、子ども会活動や子どもフェスティバル実行委員などを通じて、子どもたちが自分たちの力で事業の企画・運営を経験し、企画力や協調性などを培う。 【成果指標】 会員の現状維持。市ジュニアリーダーの会員数30名を目指す。</p>	<p>①市及び地区子ども会育成連絡協議会 ・補助金834千円 (8地区115単位、子ども5,051人、育成者2,063人) ・ジュニアリーダークラブ「蒲公英(たんぽぽ)」の派遣活動を年間17件行った。 ②ジュニアリーダー教室の開設 ・6月から8月まで回実施。8名(中学生1名、小学6年生7名)が参加し、教室修了後、3名がジュニアリーダークラブ蒲公英に加入した。 ③子どもフェスティバル ・公募による小学生の実行委員28名が、大人の委員12名とともにフェスティバルの企画と運営に携わった。 ④山之口地区子ども会育成連絡協議会 ・補助金:130千円(32単位、570人) ⑤山田地区子ども会育成連絡協議会 ・補助金:130千円(30単位、子ども539人、育成者385人) ⑥高崎地区子ども会育成連絡協議会の再構築 再・再構築はできなかったが、21地区(自治公民館単位)でそれぞれの地域で活動が行われた。 市市ジュニアリーダーの会員数は30名であった。 22年度決算額 1,468千円</p>
<p>放課後子ども教室推進事業 (生涯学習課・高崎教育課)</p>	<p>放課後や週末等に、子どもの安全・安心な居場所を確保するため、学校の空き教室や地区公民館等を使用して、地域の協力を得て、体験や学習活動、スポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等に取組むもの。</p>	<p>文部科学省の放課後子どもプランに基づく補助事業として、市内の10カ所(小学校区)で開設する。対象は1年生から6年生まで。参加料は無料。各教室では、教育委員会が委嘱したコーディネーターや安全管理員(約30名)及び地域のボランティアが指導する。 ①姫城、祝吉、横市、上長飯 年間90日開設、教室人数30~60人。 ②吉之元、夏尾、西岳、御池、高崎麓、縄瀬 年間140~240日開設、教室人数10~30人。 22年度当初予算額 ~ 11,911千円(国県補助7,903千円) 【事業の効果】 子どもたちの放課後における安全・安心な活動拠点を創出できる。 【成果指標】 各教室における前年度登録児童数268名を100として、この指標を下回らないようにする。</p>	<p>子どもたちの放課後における安全・安心な活動拠点づくりに寄与することができた。 年間90日程度開催の教室 姫城(60人,94日)、祝吉(61人,92日)、横市(50人,97日)、上長飯(46人,85日) 年間100日以上開催の教室 吉之元(14人,223日)夏尾(13人,229日)、西岳(23人,227日)、御池(7人,119日)、高崎麓(17人,233日)、縄瀬(21人,223日) ・延開設日1,622日 ・登録者 312人 ※対前年度比(33人増) ・教室コーディネーター 8人、安全管理員 30人 22年度決算額 11,445千円 (国県補助 7,593千円)</p>
<p>壮年教育推進事業 (生涯学習課)</p>	<p>「学習・奉仕・親睦」を柱にした壮年団体活動を支援し、成人男子の組織活動の充実や運営感の育成を図る。</p>	<p>昭和49年に発足した成年男子の連協組織で、姫城、小松原、妻ヶ丘、祝吉、五十市、横市、沖水、庄内、中郷の9地区連協、55単位団体が加盟している。会員数は2,145人。支援内容は、市連協の運営費のほか、地区壮年大学、地区及び市ソフトボール大会、市長・教育長との語る会等の活動奨励である。 22年度当初予算額 ~ 810千円 【事業の効果】 「ソフトボール大会」、「市長・教育長と語る会」等連絡協議会の事業を実施することにより、会員相互の交流や各地区の壮年活動の連携が図られる。 【成果指標】 計画とおりの事業実施と加盟単位数が増えることを目指す。</p>	<p>計画に基づき、地区及び市のソフトボール大会(9月5日)、市長・教育長と語る会(2月5日)等の事業を実施することができた。活動財源に占める補助金の割合が高いため、自主財源を確保するための方策を検討する必要がある。 連協への加入促進については、9連協56単位団体が現状維持であった。 平成22年度決算額 810千円(運営費補助)</p>

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
PTA活動 (生涯学習課・ 各支所教育課)	児童・生徒の健全育成のために家庭と 学校が連携を深め、子どもたちの教育環 境を、よりよくしていくPTA活動を支援す る。	市内54校のすべての小中学校の単位PTAが加盟している市及び地区PTA 連絡協議会の活動を支援する。支援内容は、市及び地区PTA連協の運営費 のほか、市長・教育長と語る会、役員研修会、都城・旭川児童生徒ホームス テイ交流事業への支援等である。 22年度当初予算額～1,9104千円(旭川交流事業補助を含む) 【事業の効果】 事業の支援を通して、会員の意識や知識の向上を図ることができる。 【成果指標】 事業計画に沿った、事業の実施、予定した参加者数の参加を目指す。	事業計画に沿った活動を役員会・理事会を定期的に開催し、実践した。 ・学年委員長研修会(8月21日) ・市長・教育委員会との教育懇談会(11月4日) ・女性会員研修会(10月11日) ・PTA会長研修会(9月3日) ・第51回都城市PTA研究大会(2月6日) ・市PTA新聞発行(10月、3月)年2回発行 ・旭川交流ホームステイ交流事業 夏季・冬季 宮崎県で口蹄疫が発生したため中止した 22年度決算額1,704千円(市P連協補助金1,704千円、旭川児童生徒ホーム ステイ交流事業補助0円含む)
家庭教育学級開設事業 (生涯学習課)	子育て中の保護者等を対象とした家庭 教育の学習、情報交換など保護者の果 たす役割、重要性などを学び、心豊かな 子どもの育成を図る。	①家庭教育学級の開設 ・小中学校、保育園、幼稚園等で73学級を予定(年間5回以上の開催、家庭教 育手帳やビデオの活用による学習を奨励)。 ②家庭教育振興大会の開催 ・学級生を主対象に、年1回、講演会を開催。 ③家庭教育講座の開催 ・公立保育所の家庭教育講座の奨励。 ・子育て中の保護者を対象にした家庭教育講座等の奨励や女性団体による 支援事業への指導助言を実施。 22年度当初予算額～1,586千円 【事業の効果】 親の意識を高めることにより、学校・家庭・地域との連携を深め、子育て等に 関する様々な問題について、対応力を身につける。 【成果指標】 各学級ごとに立案し計画した回数や参加人数など、各学級の状況に合わせ た学習会の実施を目指す。	幼稚園、保育所、小・中学校などで家庭教育学級の開設を奨励した。 ・71学級、学級生2,685人、開催総数523回 また、家庭教育の浸透を図るため、家庭教育振興大会を開催し、親の役割 や子育ての知識を得るとともに、同年代の子どもを持つ親がともに学習するこ とで、悩みや不安、ストレスの解消を図ることができた。 ・家庭教育学級振興大会 2月4日、約400名参加 22年度決算額～1,393千円
地域における家庭教育支援 基盤形成事業 (生涯学習課)	家庭教育の向上を図るため、市内 全域におけるきめ細かな家庭教育支援 活動について、主体的に企画・運営等が できる家庭教育支援リーダーを養成す る。	文部科学省の委託事業(平成20年度家庭教育支援基盤形成事業及び平成 21年度訪問型家庭教育相談事業)の内、関係者の要望が多かった「リーダ 養成講座」を、市単独事業として開催する。受講修了者には、地区における家 庭教育支援事業の企画等に参画してもらう予定である。 ・講師 家庭教育、心理学、コミュニケーション技術、メディア環境等の専門家 (大学教授等)及び子育て関係者等。 ・期間 7月から翌年1月まで。1回約2時間×18回(前期と後期に分けて開 催)。 ・対象 市内の子育てサポーターや子育て経験者等50名。 22年度当初予算額～613千円 【事業の効果】 地域の人材を家庭教育支援リーダーとして養成することにより、学校・家庭・ 地域が連携を図りながら、地域の人材・特色を生かした支援が展開できるよう になる。それにより、これまで家庭教育の支援を得られなかった親に対しても 支援できるようになると共に、地域の独自性を取り入れることにより、地域住 民のニーズに合った支援が実施できる。 【成果指標】 平成22～24年度の3年間で30名の支援人材を育成する。	家庭教育人材養成講座を開催したところ、19名が受講し、その内の8名を 支援者として育成した。 また、育成した人材が小学校2校で就学時健康診断で保護者に家庭教育の 大切さについて講話を実施した。 平成22年度決算額～328千円

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
女性教育推進事業 (生涯学習課・ 各支所教育課)	女性の生活意識の向上を図るため、女性団体の生活意識の支援及び学習活動を奨励する。	女性団体の活動を支援する。 ①市及び地区婦人会連絡協議会 小松原、五十市、中郷の3地区婦協で構成し、会員は350人。(姫城、山之口は未加入) ②地区女性団体連絡協議会 山田及び高崎地区婦人団体連絡会 ③市生活学校連絡会 消費者問題、環境問題の学習会や親睦交流事業を実施。会員は約200人。 ④障がい者婦人学級 障がい者(わかば・26人)、視覚(むつみ・12人)、肢体(あおぞら・42人)障がいの婦人学級(年間10回程度、参加料無料)の3学級を開設する。 22年度当初予算額～1,083千円 【事業の効果】課題解決に向けた学習会や研修会等を実施することで、会員同志の親睦や意識の向上が図られ、会員の確保や地区行事等の支援強化に繋がる。 【成果指標】会員の加入促進を目指し、地域活動の活性化を図る。	市地域婦人会連絡協議会は組織の弱体化や新規加入者(個人・団体)の確保に向けた取り組みを行うことを決め、新たな会員の確保や意識の向上、女性の交流を目的に「女性の集い」を行った。また、イベントへの参加により会員の加入促進を図ったが加入増にはつながらなかった。しかし、それぞれの地域での文化祭等のイベントや子どもフェスティバルへ参加し、イベントを盛り上げ活性化につながった。 ・交流会期日 11月27日(会場は中央公民館、参加者は90人) ・山田地区婦人会連絡協議会の運営支援 ・山崎地区女性団体連絡協議会の運営支援 ・高崎地区女性団体連絡協議会の運営支援 市生活学校連絡会は会員約200人、6ブロック(地区)からの構成員で構成され、課題解決に向けた学習、対話、実践運動を行っている。22年度も事業計画に沿って、自分たちの身近な問題をテーマに取り上げ、活動が実践された。 障がい者婦人学級では、聴覚(わかば、17人)、視覚(むつみ、13人)、肢体(あおぞら、39人)の3学級で学習活動を展開した。 22年度決算額～1,010千円
社教連振興事業 (生涯学習課、高崎教育課)	市及び各地区的な団体活動活性化のため、ふれあい文化祭等の事業を助成し、地域の連帯感を促進し、住みよいくりに寄与する。	市連協を組織する8団体(市自治公民館連協、市婦人会連協、市社年連協、市PTA連協、子ども会連協、市民児協、市芸術文化協会、市高齢者クラブ連合会)と11地区の地区社教連で構成する市及び地区社教連の運営費と活動を支援するもの。 ①市社会教育振興大会を教委と共催で開催 市社会教育構成者等の表彰式や講演会、共通して取り組む事項等の申し合わせを行う。 ②市社教連の運営費及び活動支援 組織化対策事業、理事研修会等の開催支援。 ③地区社教連の運営費及び活動支援 地区文化祭、研修会、体育祭等(各地区社教連主催)の開催支援。 ④高崎地区社教連の運営費及び活動支援 高崎地区内の各種団体のまとも役としての活動を支援。 22年度当初予算額～3,299千円 【事業の効果】 地区の活性化を図り、地域住民の連帯意識の醸成等に役立たせる。 【成果指標】 地域の特色を活かした効率的な活動が計画通り実施されることを目指す。	民間指導者の拡充と健全な関係団体の充実を促進するため市社会教育振興大会を開催した。 ・日時：3月5日(土)13:30～15:40 ・場所：郡城市中央公民館 大集會室 ・*従来行っていた功績者表彰並びに優良団体表彰は推薦がなかった。 ・講演会「学んだことをまちづくりに活かそう」 ～笑顔で生涯楽しく学ぶ「笑涯楽習」によるまちづくりの展開～ ・講師 株式会社 まちづくり計画研究所 代表取締役 今泉 重敏氏 平成22年度決算額～65千円 市社会教育関係団体等連絡協議会の運営の円滑化と事業の充実を促進する支援を行った。 平成22年度決算額～819千円 各地区社会教育関係団体等連絡協議会の運営及び事業活動を促進する支援を行った。 ・事業活動(ふれあい文化祭・盆踊り・総合研修他) 平成22年度決算額～2,090千円 高崎地区社会教育関係団体連絡協議会の運営費及び活動支援 高崎地区内の各種団体のまとも役としての活動を支援した。 平成22年度決算額～138千円

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
青年育成推進事業 (生涯学習課・ 高崎教育課)	様々な人々と交流を深め、自らを高めるとともに、公共に参加し、貢献する社会性を身につけた青年を育成する。	①勤労青少年ホーム 勤労青少年福祉法第15条に基づき昭和45年に設置。18歳から39歳の勤労青年を対象に、余暇を活用した文化・スポーツ活動の機会を提供する。勤労青少年ホーム指導員1名を配置。会員約150人。 ・教室の開設～文化系及びスポーツ系の12の講座を開設。入会金1,000円。毎週1回、年間を通して開催(後半は自己負担)。 ・カレッジピア(友の会)の育成～クラブ活動やレクリエーション大会の開催、県内各支部や市のイベントに参加。 ②高崎地区青年連絡協議会 会員16人。平成20年度末に山之口青年連協が解散したため、市内唯一の地域青年組織である。 22年度当初予算額～2,225千円 【事業の効果】 働く若者が余暇活動を利用して、スポーツや文化活動を行い、参加者の健康を増進することや文化的な教養を高める。また、クラブ活動以外の交流事業(レクリエーション大会、盆地まつりの出店・野外研修等)に積極的に参加しており会員同士の親睦を図る。 【成果指標】 会員増に向けた取り組みとして、積極的に社会活動等へ参加(回数増)し、アピールすることを旨とする。	事業実施後のアンケート調査(N=45人)では、9割が「楽しかった」と答えており、参加者の満足度は高かった。 ・会員257名(7講座、5クラブ) ・補助金:210,000円 ・カレッジピア(友の会)の育成、会員201人 ・9月12日に秋の交流事業(50人)、10月30日に2010焼肉カーニバル(40名)、11月21日にフリーマーケット(20名)、11月28日に県勤労青少年ホームスポーツ大会参加(30人)、2月27日に神柱ビュートック(30人)等、多くの行事に積極的に参加し、存在をアピールすることができた。 ・高崎地区青年連絡協議会が平成21年度に解散したため、青年組織はなくなった。 22年度決算額 2,039千円
成人式開催事業 (生涯学習課・ 各支所教育課)	新成人が、家庭、学校、地域に対する感謝の気持ちを新たにし、また、次代の担い手として、積極的に地域づくりに参加するための契機とする。	各地区に実行委員会を組織し、地域の特色を生かした成人式を企画、運営する。実行委員会は、新成人のほか、保護者や地元住民、学校関係者で構成する。 ・期日は平成23年1月4日～10日 ・会場は各地区ごとに決定 ・内容は式典、意見発表、アトラクション等 ・15地区の実行委員会に開催を委託 22年度当初予算額～5,012千円 【事業の効果】 実行委員会方式での地区開催を通して、成人者と地域の関係者とのコミュニケーションが可能となり、若者の地域活動に対する接点を見出すことができるようになる。 【成果指標】 地元での実行委員会方式の実施が、市内全域で(総合支所管内においても)可能となることを目指す。	市内全域で、実行委員会方式による地区別開催の成人式を実施し、アンケート調査でも概ね好評であった。総出席者数は3,089人(内訳として、新成人者1,634人、家族843人、地元や関係者612人)で、新成人の参加率は84%、新成人実行委員数は140人であった。 内容については、恩師からのメッセージ、県知事のビデオメッセージ、DVDの上映や音楽演奏、サンバ等、アトラクションも新成人自らが自作自演するなど、思い出に残る式になるような工夫がみられた。 また、成人式参加者に成人式の開催方法についてアンケートを行ったところ、回答者数が768名のうち76.9%が地区別開催を望む結果となった。 22年度決算額～4,797千円

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
<p>高齢者教育事業 (生涯学習課・ 各支所教育課)</p>	<p>高齢者の学習意欲の喚起といきいきづくり、親睦を図る。</p>	<p>高齢者学級の開設・高齢者学習グループの活動を奨励探訪し、高齢者に関する様々なテーマ(交通安全・介護・人権・健康等)で学級を開設し年度末に全学級の代表者を対象に高齢者学級振興大会を開催する。参加料は無料。</p> <p>① 高齢者学級(教室) 姫城、小松原、妻ヶ丘、祝吉、五十市、横市、沖水、志和池、庄内、西岳、中郷の11地区で30学級</p> <p>② 高城地区高齢者学級 4地区4学級及び長寿学園</p> <p>③ 山田地区高齢者学級 山田大学及び長寿学園</p> <p>④ 高崎地区高齢者学級 6地区12学級及び長寿学園</p> <p>22年度当初予算額～ 1,943千円</p> <p>【事業の効果】 地区における高齢者のスポーツ活動の奨励と相互の交流を深めることができる。</p> <p>【成果指標】 全地区での開催を目指す。</p>	<p>当初の目的を達成し、高齢者の生きがいづくりと交流を促進することができた。</p> <p>① 高齢者学級(教室) 姫城、小松原、妻ヶ丘、祝吉、五十市、横市、沖水、志和池、庄内、西岳、中郷の11地区で29学級</p> <p>② 山之口地区高齢者学級 長寿学園(あじさい学園)及び中央高齢者大学 131名参加</p> <p>③ 高城地区高齢者学級 5地区5学級 長寿学園(日と城学園を含む) 390名参加</p> <p>④ 山田地区高齢者学級 山田大学及び長寿学園(りんどう学園) 延810名参加</p> <p>⑤ 高崎地区高齢者学級 3地区3学級 長寿学園(たちばな・ふるさと・ふれあい学園を含む)589名参加</p> <p>22年度決算額～1,340千円</p>
<p>自治公民館活動 (各支所教育課)</p>	<p>公民館活動を通して、地域における社会教育の振興を図り、生涯学習、地域福祉の振興に寄与する。</p>	<p>① 市及び11地区区公民館(姫城、小松原、妻ヶ丘、祝吉、五十市、横市、沖水、志和池、庄内、西岳、中郷)の地区自治公民館連絡協議会 ・市理事会、市運営講習会、市振興大会等への参加し助言を行う。 ・11地区内の地区館長会、地区訪問座談会、地区の館長研修会等へ参加し助言を行う。</p> <p>② 山之口地区自治公民館連絡協議会 ・運営補助金 22年度当初予算額～ 3,981千円</p> <p>③ 高城地区自治公民館連絡協議会 ・運営補助金 22年度当初予算額～ 6,915千円</p> <p>④ 山田地区自治公民館連絡協議会 ・運営補助金 22年度当初予算額～ 8,896千円</p> <p>⑤ 高崎地区自治公民館連絡協議会 ・運営補助金 22年度当初予算額～ 8,528千円</p> <p>【事業の効果】 地域活動の活性化を図るとともに、住民の連帯意識の高揚に役立つものである。</p> <p>【成果指標】 自治公民館の効率的な運営に資するものである。</p>	<p>① まちづくり・人づくり・世代間交流など、地域コミュニティづくりの拠点となる自治公民館の育成に対して助成を行い、それぞれ独特の地域づくりや地域活動を支援するための指導、助言を地区公民館並びに各教育課で行った。</p> <p>・市内11地区区自治公民館の運営費補助並びに公民館建設、施設整備等の補助金は、平成20年度よりコミュニティ課へ所管替え。</p> <p>《運営費補助金》</p> <p>② 山之口地区自治公民館 22年度決算額～ 3,981千円</p> <p>③ 高城地区自治公民館 22年度決算額～ 6,915千円</p> <p>④ 山田地区自治公民館 22年度決算額～ 8,896千円</p> <p>⑤ 高崎地区自治公民館 22年度決算額～ 8,528千円</p> <p>健全な住民主体の自治、地域づくり、人材育成に取組み、各自治公民館の連携と情報共有を促すとともに、地域内の伝統行事や祭りイベントの開催など均均衡ある自治活動運営を行うことができた。</p>

③ 青少年の健全な育成

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
<p>青少年健全育成推進事業 (生涯学習課・各支所教育課)</p>	<p>青少年育成国民会議及び県民会議との連携を図り、時代を担う青少年の健全育成を図るため、青少年健全育成市民会議等の活動を推進する。</p>	<p>① 青少年健全育成市民会議の事業推進 地区青少年協会の本部組織として昭和54年に設置。青少年関係の諸機関や団体、学校、社会教育団体及び地区青少年協会の代表等で構成。 ・総会及び青少年健全育成市民大会の開催 ・啓発活動(懸垂幕掲示)の推進 ・「家庭の日」の普及促進 ② 地区青少年育成協議会の活動奨励 本庁管内の中学校区に12団体、総合支所管内に各1団体ずつの合計16の地区青少年育成大会(子どもたちの声を聞く会等) ・子ども安全見守り活動等 22年度当初予算額～ 1,371千円 【事業の効果】 次世代を担う青少年の健全育成が推進され、青少年の育成に対する地域の住民や青少年育成に携わる関係者の意識を高めることができる。 【成果指標】 総会への出席者を90人以上、推進大会への参加者を150名人以上を目指す。</p>	<p>事業計画に基づき、以下のとおり実施した。 ① 青少年健全育成市民大会 H23/2/4 MJホール 400人 講演「不安な時代を生きる子ども達をどう支えるか」 講師 石川 結貴氏(作家) ・啓発活動(懸垂幕掲示)の推進 ・「家庭の日」の普及促進(団体総会資料に啓発資料添付) ② 地区青少年育成協議会の活動奨励 本庁管内の中学校区に12団体、総合支所管内に各1団体ずつの計16の地区青少年育成大会(子どもたちの声を聞く会等) ・子ども安全見守り活動等 22年度決算額～ 1,148千円</p>
<p>地域で子どもを育てる体験活動支援事業 (生涯学習課・各支所教育課)</p>	<p>地域で行う青少年の自然体験、職業体験、地域交流を通して、豊かな心とたくましく生きる力を養う。</p>	<p>小・中・高校生及び地域住民の業団で、地域の実態に応じた体験活動を実施する事業を補助する。地域を単位とする団体 ・対象 小学校区以上の地域を単位とする団体 ・内容 自然体験、宿泊体験、各種交流、地域の産業体験、伝承芸能体験、社会奉仕体験等 ・事業費の3分の1以内で20万円を限度とする補助金 22年度当初予算額～ 600千円(補助金) 【事業の効果】 子ども達が体験活動に参加することにより、健全育成に繋げることができ、あわせて、地域の複数の団体等が協働・連携して取り組むことにより、地域の教育力の向上が図られる。 【成果指標】 各地区で取り組む事業について、短期単発型事業と長期継続型事業の割合を増やす。</p>	<p>下記の団体に対し助成を行い、地域の実態に応じ、また地域の教育力を活用した体験活動を行うことで、青少年の育成ができた。 ・苗水地区公民館(長期継続型) 4月18日～3月27日、約70人参加、通年で、稲作、宿泊、野焼き陶芸、そば作り、地突き歌の継承等を実施 ・リメンバー石山実行委員会(長期継続型) 11月21日、125人参加、宿泊及び伝統芸能、高齢者交流等の体験活動の実施 3月4日～5日、39人参加、宿泊及び伝統芸能、高齢者交流等の体験活動の実施(長期継続型) ・綿瀬地区公民館(長期継続型) 6月12日～2月6日、約70人参加、高齢者交流、環境美化、稲作体験等の実施 ・郡城市山之口地区民生委員児童委員協議会 8月8日、54人参加、親子ふれあい教室 22年度決算額～ 541千円(補助金)</p>

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
学校支援地域本部事業 (生涯学習課)	中学校区単位に地域全体で学校を支 援する体制づくりを推進し、地域住民の 積極的な学校支援活動を通じて、教員や 地域の大人が子どもと向き合う時間及び 地域住民が学習活動の成果を生かす場 をつくり、地域教育力の向上を図る。	文部科学省の委託事業で、志和池地区をモデル地区に指定し(平成20～22 年度までの3か年事業)、学校と地域ボランティア間の調整を担当するコーデ ィネーター2名を配置する。 ・事業主体は志和池地区地域教育協議会(学校や地域団体・機関の役職員 等24人に委嘱) ・事業内容は、学校環境の整備(花壇整備、プール清掃等)、学校行事の支 援(運動会補助、収穫祭補助)、授業の支援(書写・ミシン・裁縫・郷土史、茶 摘み等)、安全指導(登下校の見守り)、校外活動の支援(引率支援、読み聞か せ、高校受験面接指導)等の163事業を実施している。 ・登録ボランティアは165人。 22年度当初予算額～2,859千円 【事業の効果】 地域住民の学習成果を、学校支援事業に生かすことができる。 【成果指標】 支援事業への地域協力者(登録ボランティア)を100名以上確保する。	学校支援地域本部事業への理解が深まり、地域内の協力の輪が広がってき ました。特に「読み聞かせ」や「見守り活動」については順調であった。 ・事業主体「志和池地区地域教育協議会」～24人に委嘱。 ・事業内容 学校環境の整備(花壇整備、プール清掃等)、学校行事の支援 (運動会補助、収穫祭補助)、授業の支援(書写・ミシン・裁縫・郷土史、茶摘 み等)、安全指導(登下校の見守り)、校外活動の支援(引率支援、読み聞か せ、高校受験面接指導)等の事業を実施。 ・コーディネーター2名。 ・登録ボランティアは98名。 ・H22年度決算額～2,452千円
地域づくり育成事業	豊かなまちづくりを目指すため、人材や 地域資源の発掘・育成し、公民館活動と 連携した地域活性化を図る。	①まちづくり委員会 高城地区内21の自治公民館から推薦された40名で構成するまちづくり委員 会の活動(盆踊りや高城再発見事業等の企画と運営を通して人材育成と地 域活性化を図る)を支援する。 22年度予算額～1,300千円 【事業の効果】 都市内においては、高城地区のみの組織である。まちづくり委員会が独 自に決めたイベントや研修会を実施する過程が人材育成につながり、結果的 に地域づくり、まちづくりの活性化につながる。 【成果指標】 「高城盆おどり」や「都城地域再発見事業」等を高城地区内の住民に広く呼 び掛けを行うことにより、高城地区のふるさとを再確認してもらい、高城 地区の地域づくりと人づくりを担う。 ②地域組織育成連絡協議会 高城地区内自治公民館の青年、壮年、婦人部を掘り起こし、自治公民館単 位での伝統行事や清掃活動、ボランティア活動等を通して、地域リーダーを 育成して地域の連携、活性化を図る。 22年度予算額～2,494千円 【事業の効果】 地域組織育成連絡協議会へ運営補助を行うことにより、高城地区内の地域 活動において中核をなすべき若年層並びに婦人会を含めた組織活動の活 力を喚起し、新たな地域づくりを目指す。 【成果指標】 高城地区の21組織がそれぞれ地域の地域において、地域の連帯活動を再構築 する。	①口蹄疫防疫のために、毎年恒例で主催していた高城盆踊りを中止したもの の、研修活動に取り組んだことで、委員の知識や資質の向上を図ることがで きました。 ・実績:がんばろう都城 花火大会(8/28)、東目街道秋祭り(10/31)、まちづ くり講演会(1/23)、都城地域再発見事業(2/27) 22年度決算額:765千円 ②地域組織育成部が、それぞれの地域課題に対して独自の活動を展開する ことで、住民自治や人材育成並びに地域づくりに寄与することができた。 ・実績:各地域の環境美化(花植え)作業及び清掃、草刈り作業、秋祭り、 高齢者交流会、降反作業等 22年度決算額:2,494千円
高崎地区高校生保護者連絡 協議会補助 (高崎教育課)	同年代の子どもをもつ保護者同士が、 お互いに子育ての悩みや喜びを語り合 いを行うことにより、連絡体制や、協力体制 が増すことにより、希望の持てる高校 生活が送れるよう側面から支援してい くことを目的とする。 ■事業期間(始期不明～終期未定) 継続	・定期的な地区内各駅の清掃、花植えを行い、自分達が普段利用している駅 の美化活動 ・高校生が一同に会し、レクリエーションをおとした集いの開催 ・列車に添乗し、高校生の登下校の様子を観察 ・夏祭りのパトロール実施 ・年2回の保護者研修会開催 22年度予算額 60千円 【事業の効果】高校生とその保護者により高校生の健全育成を図る 【成果指標】駅前の環境美化や保護者の研修を通して、高校生の健全育成を 行う	高崎地区内約300名の高校生及びその保護者が、JR吉都線各駅の清掃・ 花植え等のボランティア美化活動・レクリエーション大会・保護者研修等を実施 して相互の交流を深めながら、高校生の健全育成のために活動した。駅清 掃等年4回160名、レクリエーション大会(高校生の集い)年1回70名、保護者研 修会年2回80名の参加があった。 22年度決算額 60千円

(3) 図書に親しむ環境づくり

① 図書館サービスの整備・充実

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
<p>図書整備充実事業(図書館資料購入)(図書館)</p>	<p>多様な図書資料の収集と整理・保存に努め、市民ニーズに対応した図書サービス等の整備充実を図る。 遠隔地への図書サービスの上と館外利用の促進を図る。 ■事業期間(不明～終期未定)継続</p>	<p>・貸出しを主とした資料を収集するように努め、一般図書・専門書等の資料・蔵書の充実を図る。 ・郷土資料、行政資料の整備充実を図る。また、宮崎日日新聞のマイクログラムの保存管理とその利用促進を図る。 平成22年度当初予算額:24,805千円 ・図書館のサービス・ネットワークづくりを推進するため、移動図書館くれよん号の蔵書の充実、貸出業務等のサービス向上を目指す。 ・ひばり文庫等館外文庫の整備、資料の充実を図り、読書普及を図る 平成21年度当初予算額:3,376千円 【事業評価】多くの図書資料の収集・保存に努め、市民ニーズに応じた図書館サービスの充実を図る 【成果指標】一般図書・専門書・雑誌など約15,000冊を購入予定</p>	<p>平成22年度の日本の新刊発行点数は74,714点であるが、このうちでできるだけ多くの図書を市の蔵書として揃えられるよう努力し、14,321冊の図書を購入した。 ・郷土資料やマイクログラム等の整備充実と、インターネット等による利用促進を並行して取組んだ。平成21年度からは「上原文庫展」を毎年催し、市独自の貴重な所蔵図書についての啓発を行った。 22年度決算額:24,629千円 ・移動図書館くれよん号を市内34か所のステーションに毎月巡回させ、またその他9か所の「ひばり文庫」への配本も行い、図書館から離れた地域への図書館サービスの展開による読書普及を行っている。 平成22年度利用者実績 ① 都城市立図書館総入館者数:148,464人 ② 高城図書館総入館者数:53,846人 ③ 移動図書館くれよん号・ひばり文庫利用者数:8,445人(47,843冊) 22年度決算額 3,496千円</p>
<p>図書館ボランティア・NPO等団体育成事業(図書館)</p>	<p>図書館活動の活性化を図るとともに、窓口業務の一部委託を行い、窓口サービス向上を図る。また、図書館ボランティア活動を支援する ■事業期間(平成20年度～平成22年度)</p>	<p>・図書館窓口業務の委託に向けての体制づくり ・図書館窓口業務委託先進地の調査及び研修 平成22年度当初予算額:2,747千円 【事業評価】図書館サービスの向上をめざし、図書館司書のスキルアップ、併せて、経費節減を図るために、図書館窓口業務の一部委託実施に向けて検討する 【成果指標】窓口業務を成23年4月から委託する</p>	<p>4 ・図書館業務のうち委託できる内容について詳細な検討を行った。また委託スタッフの配置についても詳細な検討を行った。 ・図書館業務の委託についての歴史・実績がある宮崎市立図書館と、業務しているNPO法人MCLボランティアに調査研修を実施した。 ・委託後の業務内容や職員的身分などについて、職員が意識を共有できるよう全員を対象に研修を行った。 平成23年度4月から窓口業務委託を開始するための体制が整った。 22年度決算額 2,682千円</p>
<p>文化振興基金活用図書館利用促進事業(図書館)</p>	<p>図書館の利用促進、図書に親しむ環境づくり、また、身近な図書館づくりを目指す ■事業期間(平成11年度～終期未定)継続</p>	<p>・図書館まつりの開催 図書ふれあい広場:市民から集まった本や雑誌を希望する市民にプレゼントする図書交換市 記念講演:作家の太田治子氏を迎え、『明るい方へ 父・太宰治と母・太田静子』と題し、講演会を実施。 平成22年度当初予算額:262千円 【事業評価】図書館利用促進の一環として、図書館に親しむきっかけづくりの機会とする 【成果指標】図書ふれあい広場や読み聞かせ会、講演会等で本に親しむもつてもらうと同時に、図書館をPRする場とする。</p>	<p>5 文化振興基金を活用し、市民から提供のあった本や保存年数の経過した雑誌など約7,500冊を展示し、交換市(図書ふれあい広場)を開催して、本に親しむ環境づくりに努めた。また、あわせて読み聞かせ会、こども映画会を実施した。当日は、図書ふれあい広場へ約510人、読み聞かせ会・映画会には約70人の参加があった。(平成22年11月7日 会場:高城生涯学習センター) 記念講演では、太宰治を父にもつ作家の太田治子氏を迎え、『明るい方へ 父・太宰治と母・太田静子』と題し、講演を開催し、約200人の参加があった。(平成22年11月18日 会場:ウエルネス交流プラザ ムジカホール) 22年度決算額:231千円</p>
<p>文化振興基金活用事業(富松良夫賞)(図書館)</p>	<p>郷土の詩人富松良夫を顕彰し、市民への認知を図り、文芸に優れた人材育成を目指す。 ■事業期間(平成21年度～平成23年度)新規事業</p>	<p>【事業評価】郷土の詩人 富松良夫を広く認知し、文芸に親しむ環境づくりの一環として、詩の募集を行う 【成果指標】 ・22年度は募集範囲を広げ、一般の部は県内全体を対象を広げ、小・中学生は都城市内及び三股町を対象に創作詩の募集し、優秀作品の表彰を行った。 平成22年度当初予算額:4,999千円</p>	<p>4 ・選考委員は富松良夫顕彰委員会(5人)に委託。 ・一般応募数を増やし、都城市のみならず県内に広く大勢の方に「富松良夫」の認知度の向上を図り、文芸者育成に努めた。 ・特に小中学生の応募数が増えたことは、富松良夫の認知度が高まったと思われるが、更に高めたい。 22年度募集作品数 319点(一般27人、小学生208人、中学生84人) (H21年度応募総数86点) 22年度決算額 466千円</p>

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
親子絵本ふれあい事業 (図書館)	幼児と保護者に読み聞かせを行い、心豊かな子どもを育てる。 ■事業期間(平成15年度～終期未定)継続	乳幼児期から絵本を読み聞かせて親子のふれあいを深め、本及び図書館好きな子どもを育てるために、親子絵本ふれあい事業を毎月2回実施。 平成21年度当初予算額:406千円 【事業評価】1歳半～2歳児の親子が本に触れあう機会づくりとなる 【成果指標】他自治体で実施されているブックスタート事業に代わり得るものである。	親子で絵本と親む機会をつくり、親子の絆を深めるために、図書館で毎月2回講師1～2名による絵本の読み聞かせを行った。臨時休館(口蹄疫)のため、前年度に比べ実施回数(は)は回減少したが、参加組数は増加した。 参加組数は165組、1回平均7.2組 22年度決算額:332千円

#### (4)スポーツの振興

#### ①生涯スポーツの振興

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
都城市スポーツ関係団体等運営費補助金(都城市体育協会)交付事業 (スポーツ振興課)	市におけるアマチュアスポーツを統括するとともに、スポーツの健全な普及発展を図り、市民の体力向上とスポーツ精神を養うことを目的とする。また、市及び宮崎県体育協会と連携し競技力向上に努め、併せて市民総スポーツを旨とした普及振興に努める。 ■事業期間(終期未定)継続	・普及育成事業:①市体協・組織団体の充実を図る。②市民総スポーツ運動を展開する。③スポーツを通して児童生徒の健全育成を図る。④地域スポーツの振興を図る。 ・選手養成(派遣)事業:みやざき県民総合スポーツ祭への選手派遣 ・表彰事業:市スポーツ賞表彰(団体の部・個人の部) 22年度当初予算額:3,091千円 【事業の効果】本市におけるアマチュアスポーツを統括し、体育スポーツの健全な普及発展を図る。 【成果指標】競技種目の普及講習会、指導者資質向上講習会などの開催。	・体育協会(加盟48団体)に運営費補助金を交付し、活動を支援するとともに、事業計画に基づき各事業を実施した。 ・体育協会運営費補助金…指導者育成事業、地域体育振興事業等を実施するとともに、都城市スポーツ賞表彰を団体5・個人20に対して行った。 ・みやざき県民総合スポーツ祭 (平成22年9月4日(土)～平成23年1月29日(土)、宮崎市ほか) ○都城市体育協会の 理事等～5回開催、評議員会～1回開催 種目普及育成費～8団体へ補助(決算額:246千円) 指導者育成費～6団体へ補助(決算額:257千円) 地域体育振興費～10地区体育協会へ補助 22年度決算額:3,091千円
都城市スポーツ関係団体等運営費補助金(都城市スポーツ少年団)交付事業 (スポーツ振興課)	青少年がスポーツを通して、心身を鍛錬し体力を強化しつつ人間性を陶冶し良き社会人となるよう育成、指導に努めるとともに単位団の育成強化を図る。 ■事業期間(終期未定)継続	・スポーツ少年団結団式 ・県スポーツ少年団中央大会・都城市ブロック大会(県総合運動公園ほか・都城運動公園体育館ほか)・バレーボール・軟式野球・サッカー・剣道・ミニバスケットボール・少林寺流空手道・全日本空手道・ソフトテニス) ・スポーツ少年団リーダー研修会 22年度当初予算額:905千円 【事業の効果】青少年の健全育成を担うスポーツ少年団活動の活性化を図る。 【成果指標】結団式、スポーツテスト、指導者講習会、リーダー研修会、スポーツ交流大会などの開催。	・スポーツ少年団本部(団数:121団、団員数:1846人)に運営費補助金を交付するとともに、事業計画に基づき各事業を実施した。 ・スポーツ少年団結団式 (平成22年4月29日(木)に予定していたが、口蹄疫のため中止) ・スポーツ少年団本部運営費補助金…リーダー研修会(口蹄疫、新燃岳噴火のため中止)・指導者研修会他 ○都城市スポーツ少年団リーダー研修会～年2回、指導者研修会～年4回、企画運営部会～年5回、育成指導部会～年3回 22年度決算額:905千円
都城市スポーツ関係団体等運営費補助金(都城市体育指導委員協議会)交付事業 (スポーツ振興課)	教育委員会と協力して各種体育事業の円滑な運営を図り、市民の体位、体力向上、健全な体育の振興に寄与する。 ■事業期間(終期未定)継続	・都城市体育指導委員:定数47名、任期2年(22年度～23年度)、専門部会(研修部会・広報部会) ・事業内容:全休研修会(体指だより) 22年度当初予算額:802千円 【事業の効果】各種体育事業に協力し、市民の体力向上と健全な体育振興を図る。 【成果指標】研修会及びスポーツ教室の企画・指導、広報誌発行。	・体育指導委員協議会に運営費補助金を交付するとともに、事業計画に基づき各事業を実施した。 ・都城市体育指導委員:44名委嘱 ・体育指導委員協議会運営費補助金…資質向上のための全体研修会、部会(研修、広報)、広報紙発行 ○都城市体育指導委員協議会 全体研修会～年5回、研修部会～年5回 広報誌～年1回発行、6,280部(世帯回覧) 22年度決算額:802千円

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
<p>都市市体育指導委員衣服補助金交付事業 (スポーツ振興課)</p>	<p>体育指導委員の連帯感を醸成し、規律ある行動を行うためユニフォーム(ジャージ上下、ウィンドブレーカー)購入の一部補助を行う。 ■事業期間(終期未定)継続</p>	<p>体育指導委員ユニフォームの購入対象 6年経過者及び新任者に対し、購入費の3分の2を補助 22年度当初予算額:172千円 【事業の効果】統一性、連帯感を持ち、より一層指導委員としての資質向上を図る。 【成果指標】新任指導委員に対する衣服購入助成を行う。</p>	<p>5 ・体育指導委員8名に対しユニフォーム購入補助を行った。 22年度決算額:96千円</p>
<p>山之口地区体育協会運営費補助金 (山之口教育課)</p>	<p>地区住民の体力向上と健康増進を図るとともに、スポーツの振興に努める。 【事業期間】平成18年度～終期未定 継続</p>	<p>山之口地区体育協会に加盟している10の種目団体毎に、年間事業計画に基づき各種大会を実施し、組織の充実、競技力の向上を図る。 22年度当初予算額 338千円 【事業の効果】地区住民の体力向上、健康増進、並びに競技力の向上、スポーツ振興を図る。 【成果指標】各競技種目毎に各種大会の開催を実施する。</p>	<p>5 山之口地区体育協会に対し補助金を交付し、協会加盟の種目団体(10団体)の活動を支援した。 加盟の種目団体によって、活動の温度差がある。全体的に活動の底上げを図ることが課題である。 ・11月・・・山之口近郊小学生バレーボール大会 ・3月・・・山之口ミニハレーボール協会長杯大会 22年度決算額:338千円</p>
<p>山田地区体育協会運営費補助金 (山田教育課)</p>	<p>スポーツを振興し、地区民の体力向上と健康の維持増進を図る。 ■事業期間(昭和36年度～終期未定) 継続</p>	<p>山田地区体育協会に加盟する団体の育成強化と加盟団体相互の連絡調整を図り、各種大会や講習会等に関する各種事業の実施及び援助を行う。 22年度予算額 300千円 【事業の効果】スポーツ振興の中核を担う山田地区体育協会を支援することにより、地域でのスポーツの振興と、地区市民の体力向上及び健康増進を図る。 【成果指標】山田地区体育協会加盟団体の育成と連携を強化し、様々なスポーツに関する事業を実施する。</p>	<p>5 山田地区体育協会に対し補助金を交付し、体育協会加盟団体(6団体)の活動を支援するとともに、様々なスポーツに関する事業を実施した。 9月・・・公民館対抗ソフトボール大会 10月・・・山田地区市民パークゴルフ大会 ※6月と8月に開催を予定していた公民館対抗球技大会は、口蹄疫のため中止した。 22年度決算額 300千円</p>
<p>都城さくらマラソン運営費補助金 (高城教育課)</p>	<p>生涯スポーツ、競技力スポーツを旨とする市内外からのランナーたちが、桜満開時の親池公園に集まって行われる大会で小学生から一般の方まで幅広く参加するイベントである。住民が健康で暮らせるように基礎体力の向上を目指すとともに一同に会することにより選手間の交流を図る。 ■事業期間(平成10年度～終期未定)継続</p>	<p>平成10年度から県の新しいむかづくり運動支援事業により高城地区石山親池公園の桜並木の中を駆け抜ける大会として、さくらフェスタジョギング高城として開催してきたが、平成20年度より都城さくらマラソンと改名し、高城地区体育協会が実施主体として企画運営を行い、九州各県からの参加もあり、都城盆地では唯一の大会として定着している。 22年度予算額:3,500千円 【事業効果】市民をはじめ、県内外のランナーが多く参加され、県内の大会として定着している。 【成果指標】市内外、県外からの参加も年々増え、専門誌等でも取り上げられ、知名度も上がっている。</p>	<p>5 ハーア馬拉ソンの導入等により大会の認知度は益々高まり、地元はもとより県外からの参加者も多く、北は山形県、南は沖縄県からの参加もあり、親池公園の桜の名所としての知名度アップ、公園の利用促進も同時に図ることができた。 ・開催日 23年3月27日 ・参加者数 1,357名(参考:21年度1,489名) 22年度決算額:3,500千円</p>
<p>高城地区ふれあい健康づくり大会運営費補助金 (高城教育課)</p>	<p>高城地区自治公民館協議会が主催となり、ふれあいスポーツ大会を開催することにより、スポーツ人口を増やし、住民が健康で暮らせるように基礎体力の向上を目指す。高城地区住民が一同に会することにより住民間の交流を図る。 ■事業期間(昭和46年度～終期未定)継続</p>	<p>高城地区の20自治公民館対抗やソフトボール、ミニハレーボール、グラウンドゴルフ、ウォーキングなどの競技及びレクリエーションを行うことにより、生涯スポーツの振興を図り、健康づくり、体力づくりの輪を広げ、広く相互のふれあい交流を図るものである。 22年度予算額:800千円 【事業効果】軽スポーツ中心の競技構成で住民の幅広い参加が可能になっており、健康、体力増進の大会である。 【成果指標】競技及びレクリエーションを通じて健康・体力増進、住民間の交流の場である。</p>	<p>1 法定家畜伝染病(口蹄疫)発生に伴い、中止した。 22年度決算額:0千円 (予定していた計画) ・日程 平成22年5月16日(中止) ・会場 高城総合運動公園・高城小中学校運動場・親池周辺 ・競技種目 ミニハレーボール・グラウンドゴルフ・ソフトボール・ウォーキング</p>

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
高城地区分館体育大会運営費補助金(高城教育課)	各自治公民館が中心となり、各地区において地域住民の連携と交流を目指し、生涯スポーツの振興を図りながら、市民の健康づくりの輪を広げる。 ■事業期間(昭和40年度～終期未定)継続	昭和40年度から4年に1回高城町民体育大会が開催され、その他の年は分館体育大会が行ってきた。平成20年公民館協会において高城地区町民体育大会が廃止となり、今後は分館体育大会として継続することになった。各自治公民館が中心となり各地区において地域住民の連携と交流を目指し企画運営を行い、相互のふれあい、生涯スポーツの振興も図りながら、市民の健康づくりの輪を広げる。 【事業効果】 地域住民の連携と交流、健康づくりが図られている。 【成果指標】 各地区における世代間交流が図られている。	17の自治公民館が中心となり、各地区において合同運動会・ウォーキング・グラウンドゴルフなどを開催し、地域住民の連携と交流を目指し、企画運営が行われ、相互のふれあい、生涯スポーツの振興を図れた。 ・開催日 9月19日～11月23日の間 ・公民館数 15団体(21公民館) ・参加者数 2,090人 22年度決算額:800千円
高城地区体育協会運営費補助金(高城教育課)	各種競技団体を統括する体育協会に補助することにより、地域において生涯スポーツの推進、競技力向上を図り、またスポーツイベントを開催することにより、市民の健康を促す。 ■事業期間(昭和44年度～終期未定)継続	高城地区体育協会に対し補助金450,000円を交付し、体育協会加盟団体(9団体)の活動を支援している。 (昭和44年8月1日設立 会員1,000名) 【事業効果】 地区住民の体力向上、健康づくり及び各種競技団体の育成やスポーツイベントを継続して行っている。 【成果指標】 地域でのスポーツイベント等を実施するとともに、地域住民の健康づくりに取り組んでいる。	加盟団体との共催事業や、支援事業等を通して生涯スポーツの推進を図ることができた。 ・共催事業:軟式野球教室、ミニテニス夜間リーグ大会、バドミントン大会、かけっこ教室(陸上)、南九州グランドゴルフ大会、レクリエーション教室 ・支援事業:ソフトテニスナイトリーグ、グランドゴルフ協会大会、軟式野球連盟ナイトリーグ大会等 22年度決算額:450千円
高城地区体育協会運営費補助金(高城教育課)	競技力の向上及び組織の充実を図る。 ■事業期間(始期不明～終期未定)継続	地区体育協会と連携し、生涯スポーツの普及、振興、住民のスポーツ精神・体力向上に努める。また、各競技種目団体等とも協力して競技力の向上を図り、住民一人ひとりがスポーツに関わることを目指し、推進を図る。さらに、スポーツを通して、青少年の心身の健全な育成を図り、体力を高め、社会人となるよう育成、指導に努める。 22年度予算額 398千円 【事業の効果】地域スポーツ振興中心団体として地域住民の健康づくりを行う【成果指標】各競技団体の育成を行い、各種スポーツイベント開催により地域住民の体力向上や健康づくりを行う。	各スポーツイベントを中心とした立場で行い、生涯スポーツの推進を図る事が出来た。主催・共催事業として、高城地区スポーツ祭、公民館対抗旗伝大会、チャリティゴルフ大会を開催しスポーツによる地域振興を図った。しかし、どろんこハルポール大会、高城地区球技大会、高崎クワソカントリー大会等を計画し開催する予定であったが、口蹄疫及び鳥インフル拡大防止の関係で準備だけで終わった。 22年度決算額 398千円

## ②競技スポーツの強化

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
都城市全国大会等参加補助金交付事業(スポーツ振興課)	スポーツ人口の底辺拡大と競技力向上を図る。 ■事業期間(終期不明)継続	九州大会以上の大会に県又は九州代表として参加する団体や個人に補助金を交付する。 22年度当初予算額:3,000千円 【事業の効果】競技力の向上、社会体育活動の振興を図る。 【成果指標】代表選手に対し、出場機会の確保と経済的負担の軽減による参加支援。	全国大会、九州大会(延69回)に出場する団体・個人に対し、開催地区分により定額の旅費補助を行い、青少年及び一般の競技力向上のための支援を行った。 22年度決算額 2,984千円
みやざき県民総合スポーツ祭選手派遣(スポーツ振興課)	広く市民の参加を得ながら都城市選手団として派遣し、競技力向上及び生涯スポーツの振興を図るため、事務を統括する都城市体育協会へ補助金を交付する。 ■事業期間(終期未定)継続	みやざき県民総合スポーツ祭への選手派遣 期日 平成22年6月11日～12日 競技 陸上ほか 競技、交流競技として武術太極拳ほか 競技 会場 宮崎市ほか 22年度当初予算額:3,800千円 【事業の効果】代表選手派遣による競技力向上、生涯スポーツの振興を図る。 【成果指標】各競技種目へ1,000人を超す選手を派遣。	・都城市選手団総数785名(監督43名、選手742名) ・団体1位:バレーボールほか6競技、団体2位:体操ほか7競技、団体3位:サッカークロカ1競技という実績であった。 口蹄疫のため、各競技ごとの開催となり、開催時期も当初予定の6月が延期され、9/4～H23年1/28の開催となった。(競技によっては、開催できなかつた者がある。) 22年度決算額:1956千円

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
成人記念ロードレース大会 開催費補助金交付事業 (スポーツ振興課)	小学生から大人まで誰でも気軽に参加できるスポーツイベントとして機会を提供し、市民の体力向上に資するため、都市陸上競技協会へ補助金を交付する。 ■事業期間(終期未定)継続	期日 平成23年1月16日 会場 都城運動公園陸上競技場～三股町 内容 小学3年生以上の男女と壮年の部(2km・3km・5km) 22年度当初予算額:162千円 【事業の効果】市民誰もが気軽に参加できる大会として機会を提供し、体力向上を図る。 【成果指標】年齢層に応じた距離設定を行い大会を運営する。	都市陸上競技協会に対し運営費補助として162,000円交付し実施した。 2km・3km・5kmで小学生から一般の参加者が各部門ごとにタイムを競った。参加者数は、小学生220名、中学生229名、一般(高校生含む)102名、合計522名であった。 年度決算額:162千円
山之口地区ふれあいスポーツ大会開催費補助金 (山之口教育課)	地域住民がスポーツを通じて、健康、体力づくりへの意識高揚及び地域間の融和・交流を図る。 ■事業期間 平成21年度～終期末定 新規	期日 平成22年11月7日 会場 山之口運動公園及び地区体育館 種目 バレーボール、ミニバレーボール、グラウンドゴルフ、ソフトボール、ゲートボール、ミニボウリング、ミニテニス、ウォークラリー 22年度当初予算額 400千円 【事業の効果】軽スポーツを中心とした、地域対抗のスポーツ大会を開催することにより、かねて交流の少ない地区住民の親睦と交流を図り、地区の活性化及び軽スポーツの振興が推進できる。 【成果指標】軽スポーツを中心に8種目の競技を実施し、全地区区住民の1割程度の参加を見込む。	各地域単位でチームを編成し、8種目に小学生から高齢者までの627名の参加があり、地域間、世代間の交流が図られて、目的が達成できた。 ・山之口地区体育協会の各種目団体の協力を得て、自治公民館主導で大会運営ができた。 ・バレーボール 3チーム ミニバレーボール 16チーム ソフトボール 6チーム ゲートボール 7チーム ミニボウリング 14チーム グラウンドゴルフ 32チーム ミニテニス 5チーム ウォークラリー 11チーム 22年度決算額: 397千円
高崎地区体育協会スポーツ祭運営費補助 (高崎教育課)	住民の健康づくりと体力向上及び自治公民館相互の親睦融和を醸成しスポーツの振興を図る。 ■事業期間(始期不明～終期末定) 継続	期日 平成22年7月4日(日) 会場 高崎総合公園多目的広場 種目 ソフトボール、ゲートボール、ミニバレーボール、グラウンドゴルフ、弓道、ソフトテニス、四半的弓道、パークゴルフ、水泳 22年度予算額 185千円 【事業の効果】老若男女が一堂に会し、多種のスポーツをとおして、健康増進、体力向上、住民相互の親睦を図る。 【成果指標】多種のスポーツ競技を行い、地域住民が一堂に会することで、相互の親睦関係を構築し、住みよいまちづくりを推進する。	口跡夜により期日延期と種目減少。10月17日に実施。 参加人数は約600人 競技は9種目で、自治公民館対抗3種目(ゲートボール・ソフトボール・ミニバレーボール)、と公開競技2種目(弓道・四半的弓道)を行った。高崎地区住民の健康づくりと体力向上及び自治公民館相互の親睦融和を図ることが出来た。 22年度決算額 185千円
高崎地区球技大会運営費補助 (高崎教育課)	住民の健康づくりと体力の向上及び自治公民館相互の親睦融和を醸成しスポーツの普及を図る。 ■事業期間(始期不明～終期末定) 継続	期日 平成21年8月8日(日)、22日(日) 会場 高崎総合公園 他 種目 野球大会、バレーボール、ミニバレーボール 22年度予算額 135千円 【事業の効果】自治公民館対抗の球技大会を行うことにより、自治公民館の活性化の推進を図る 【成果指標】球技大会をとおして、自治公民館相互の親睦や活性化により住みよいまちづくりを行う。	口跡夜のため中止。
高崎地区公民館対抗駅伝競走大会補助 (高崎教育課)	6地区公民館分館住民が融和と団結を図りながら、体力と精神力を養い、地区のスポーツ振興に寄与する。 ■事業期間(始期不明～終期末定) 継続	期日 平成22年12月12日(日) 会場 高崎総合支所付近周回コース 参加者 地域住民(区間年齢制限あり)、小学生～一般 22年度予算額 434千円 【事業の効果】昭和47年からの伝統あるイベントをとおして、地域相互の連帯や地域活性化を図る 【成果指標】地域活性化イベントとして、地域相互の連帯感の醸成を図りながら伝統的行事として行う	地区内の6地区公民館対抗の駅伝競走大会。全12区間を小学生から50歳代の72人が周回コースで競った。沿道での一般住民の応援も多く、また地区公民館の連帯感と相互の親睦を図ることが出来た。 22年度決算額 434千円
クロスカントリー大会補助 (高崎教育課)	自然の起伏に富んだコースで自然を満喫しながらマイペースで自己の健康強化と心肺機能の向上を高める。 ■事業期間(10年度～終期末定) 継続	期日 平成23年1月23日(日) 会場 高崎総合公園多目的広場、パークゴルフ場周辺 参加者 市内及び近隣の小中高生、一般 21年度予算額 300千円 【事業の効果】市内外からの参加者に総合公園のPRや利用促進を図る 【成果指標】パークゴルフ場を中心とした、起伏に富んだコース設定により、珍しい大会として、市内外の参加を募り、PRと利用促進を図る。	高インフルエンザのため中止。 22年度決算額 203千円 ※中止となったが、当日までに準備しておくものの予算執行をした。(メダール、参加賞、ゼッケン等)

③スポーツ環境の整備

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
早水公園体育文化センター 耐震補強事業(設計委託) (スポーツ振興課)	耐震補強工事により平常時利用者の安全確保及び災害時の拠点施設としての機能を確保する。 ■事業期間(19年度～23年度)	工程 平成19年度 耐震診断委託(結果:要補強) 平成21年度 耐震設計委託 平成22年度 耐震補強工事入札・契約・工事着工 平成23年度 耐震補強工事(継続) 内容 天井部ブレース補強及び天井・支柱接合部の補強 22年度当初予算額:16,800千円 【事業の効果】一時避難所としての機能の確保及び利用者の安全性の確保を図る。 【成果指標】耐震補強工事実施のための設計委託を行う。	5 耐震補強工事の入札・契約を行い、工事に着手した。工事は、平成23年9月を終期としている。 22年度決算額7,644千円 【参考】平成23年度予算:14,200千円
拠点施設整備事業 (多目的広場オーバースタジアム) (管理委託) (高城教育課)	平成18年度より冬季スポーツキャンプ誘致等に対応するため冬芝の植え付け(オーバースタジアム)工事に取り組んでおり、リーグをはじめ社会人、学生等のキャンプ誘致し、スポーツ競技レベルアップ及び経済的波及校効果を図るとともに、地域の大会開催等によるスポーツの振興を図る。 ■事業期間(平成18年度～終期未定)継続	高城運動公園の多目的広場25,200㎡(180m×140m)を毎年半分ずつ交互に専用グラウンド(冬芝)として改修し、冬季はリーグのプロサッカーチームや社会人、大学などのキャンプを誘致に向けて環境整備を行う。今後モグラウンドの整備を進めることで、大きな大会の開催や競技者へのスポーツ振興を推進していく。 22年度当初予算額:6,136千円 【事業効果】リーグや美業団のキャンプにより、本市の知名度アップが図られるとともに、多くの大会や練習の場として、地元関係団体へのスポーツ振興が図られる。 【成果指標】プロのスポーツキャンプが行われることで、市民や地元競技関係者などのスポーツへの関心や競技力の向上が図られる。	5 グラウンドの整備を進めることで、サッカー等のプロ(リーグ)や学生キャンプ等の誘致を定着させることができた。 ・合宿実績(サッカー競技) 折尾愛真中学校(北九州市) 4月2日～4月4日(3日間) 24人参加 佐賀商業 8月3日～8月5日(3日間) 25人参加 佐佐見高校(長崎県) 8月3日～8月5日(3日間) 27人参加 関西大学第一高校 8月9日～8月14日(6日間) 66人参加 折尾愛真中学校 3月28日～3月31日(4日間) 22人参加 22年度決算額 5,933千円 ※FC東京(リーグ)・栃木SC(リーグ)・中部大学は、新燃岳噴火降灰の為、キャンセルとなる。
施設整備維持補修(農村広場ベンチ改修) (高城教育課)	生涯スポーツの推進、競技スポーツの強化を図るため体育施設を整備する。 ■事業期間(19年度～25年度) 継続	老朽化危険となった各種体育施設の補修及び体育備品の購入を行う。 22年度予算額 500千円 【事業の効果】広く市民が使用する市民広場の老朽化した設備の改修により、安全性が確保される。 【成果指標】繩瀬市民広場の2基のうち1基のベンチを改修する。	5 繩瀬市民広場1基側の改修を実施。 22年度決算額 440千円

(5)芸術文化の振興

①芸術文化活動の活性化

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
特別展・企画展事業 (美術館)	<p>年1回の特別展として、普段見られない国内内外の優れた美術品を地元で鑑賞する機会を作り、企画性の高い内容で広く市民の芸術体験を深めると共に都市圏立美術館の美術館活動を市内内外に紹介する。</p> <p>■事業期間(昭和56年度～終期未定) 継続</p>	<p>国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、通常の常設展では見ることのできない質の高い企画展を実施する。</p> <p>名称:国立国際美術館巡回展「セザンヌ、ピカソから現代まで展」</p> <p>会期:平成22年10月16日(金)～12月5日(日)</p> <p>入館者:2,700人程度</p> <p>22年度予算額9,000千円</p> <p>【事業の効果】収蔵作品による常設展では、見ることのできない作品を身近に鑑賞する機会を作る。</p> <p>【成果指標】地方では鑑賞する機会の少ない作品を公開することによって会期中入館者2,700名以上を目標とする。</p>	<p>現代美術を扱う国立国際美術館の収蔵品を中心に、京都国立近代美術館の作品も加えた巡回展で、国立美術館収蔵作品を主とまとめた形で鑑賞できる貴重な機会となった。これと同レベルの展覧会を自主企画で開催することは費用の面でも不可能であり、国立国際美術館が事業費の多くを負担する巡回展だからこそ、都城での開催が実現できた。入館者は目標を大きく上回り大きな成果があった。</p> <p>(入館者数) 7,038人</p> <p>平成22年度決算額 9,000千円</p> <p>【館内アンケートより】私は美術館ではないですが、学校で今回の特別展のチラシを拝見して来ました。絵に詳しいわけではないのですが、とても感動させられました。また来たいと思います。(10代女性) ピカソが都城で見られるのは感激でした。しかも大作に有名作品。よかったです。(30代女性) ピカソから現代までのすばらしい作品が一堂にみられる非常に高い内容でした。(60代女性)</p>

②人材育成・芸術文化交流の推進

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
市美術館事業 (美術館)	<p>都城圏域及び大隅地域住民から美術作品を公募し、作品発表の場を提供し、美術文化向上を図る。</p> <p>■事業期間(昭和28年度～終期未定) 継続</p>	<p>出品資格は都市圏・三股町・曾於市・志布志市・大崎町の在住者、元在住者、出身者、就業者及び就学者(高校生以上)で、美術作品(絵画、写真、書、工芸)4部門の公募展</p> <p>・期日:平成22年9月10日(金)～26日(日)</p> <p>・出品者数:約350人程度</p> <p>・入館者数:約400点程度</p> <p>・審査員:全国から招聘</p> <p>22年度予算額3,158千円</p> <p>【事業の効果】都城及び大隅圏域の住民の芸術文化の向上及び美術愛好者の発表の場を提供する。</p> <p>【成果指標】歴史のある公募展として充実を図り、出品数400点以上、会期中入館者3000人以上を目標とする。</p>	<p>都城圏域に限らず、三股町、鹿児島県曾於市、志布志市、大崎町など近隣市町も含め、絵画等、写真、書、工芸の4部門で作品を募集し、平成22年で57回を数える歴史ある公募展となっている。口蹄疫発生の影響もあり、出品者数、出品数、入館者数が例年を下回ったものの作品のレベルは高く充実した市美展であった。</p> <p>・出品者数331人(高校生:14人)</p> <p>・出品点数390点(絵画等:166点、写真:118点、書:62点、工芸:44点)</p> <p>・入館者数2,230人</p> <p>22年度決算額 2,781千円</p> <p>【館内アンケートより】57回を重ねる市美展。曾於市、志布志市、大崎町等県外の方が都城の文化に参加出来、年々ハイレベルになっている感じがする。高校生二人が入賞するなど、若い人々の参加が多くなることは街が元気になる。日頃日大高展など小中高大の美術展が開いた。(60代男性)</p>

③美術館収蔵品の充実・適正な保存

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
作品収集事業 (美術館)	<p>地域の美術文化の核として都城に縁のある作家で、質の高い作品を収集し、美術文化形成の充実を図る。</p> <p>■事業期間(昭和56年度～終期未定) 継続</p>	<p>作品収集委員会で作品を審査し、収蔵作品として相応しい作品を収集する。</p> <p>・作品収集委員 3名</p> <p>・作品収集委員会 平成23年2月</p> <p>22年度予算額3,582千円</p> <p>【事業の効果】郷土にゆかりのある作家の研究及び顕彰を行い、収蔵作品展として公開し都城圏域の文化の醸成を図る。</p> <p>【成果指標】郷土にゆかりのある作家の作品を2点～3点収集する。</p>	<p>作品収集方針に基づき収集委員会が協議のうえ、和田葵作作品1点、浅岡慶子作品2点を購入により、江夏英尊作品等6点及び関連資料を寄贈により収集した。</p> <p>22年度決算額 3,566千円</p>

(6)歴史と地域文化資源の継承

④文化遺産の活用と保存

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
埋蔵文化財保存活用整備事業(文化財課)	埋蔵文化財の保存と活用を行う体制を整備し、諸施策の実施を図る。 ■事業期間(22年度～26年度)継続	埋蔵文化財保存活用整備事業 ・DVD作成委託料ほか 22年度当初予算額 2,100千円 【事業の効果】出土品の活用を通し、正しい郷土の歴史に直接触れることで、先祖が守り抜いてきた自然・風土の素晴らしさ、資源の大切さ、「都城らしさ」について考え、郷土愛の高揚を目指す。 【成果指標】年間200人を目標に体験学習等を実施し、普及啓発活動を行う。	3月にDVD2本(ダイジェスト版・古墳時代編)が完成し、各小・中学校への配布と市民向けへ貸出を行っている。年間200人を目標とした体験学習会には246名の参加があり、その他の事業も含めると1700人以上(巡回企画展の人数を除く)の市民に活用していただいた。体験学習会等のアンケート等でも好評を得ている。 22年度決算額 2,100千円
大島島田遺跡保存管理計画策定事業(文化財課)	保存整備及び活用のための具体的な方針に向けての準備を推進する。 ■事業期間(21年度～26年度)継続	大島島田遺跡保存管理計画策定事業 22年度当初予算額 0千円 【事業の効果】比較的低地にあつて雨季にはたびたび冠水する当該遺跡の保存活用の基本方針を定める。 【成果指標】今後の整備に際し、国・県の文化財担当部局の指導を仰ぎながら、基本方針を検討していく。	地下水位観測データ及び、大雨時の日誌等を取載した基本構想のための基礎資料に基づきながら、国・県との協議を重ね、今後の整備の基本方針を検討した。 22年度決算額 0千円
事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
歴史資源のネットワーク化(都城島津邸)	都城島津の歴史を軸とした歴史資源のネットワーク化を進め、都城地域の一体感を醸成するとともに魅力あるまちづくりを推進する。 ■事業期間(20年度～23年度)継続	都城島津家の発祥の地である「薩摩迫」の調査及び整備を行うとともに、都城の歴史資源のPRを推進する。 【平成22年度当初予算】3,509千円 【事業の効果】都城の歴史資源の情報発信と市民への周知を徹底することができる。 【成果指標】市民の歴史認識が深まることを目指す。	薩摩迫は当時の北郷家(都城島津家)が都城で最初に居所とした場所であり、いわば「都城島津家発祥の地」といえる史跡である。この薩摩迫の範囲・構造が今回の調査によって明らかとなり、その上で人口を整備し、場所を示す石柱を設置したことで、薩摩迫の島津関連史跡としての位置が明確となった。さらに、薩摩迫に訪れる人々のための駐車場整備が完了し、都城島津邸を拠点とした島津関連のネットワーク史跡としての条件が整った。今後は、さらに情報発信に努めるとともに、歴史めぐり等のソフト事業を展開してネットワーク化を推進する。 【22年度決算額】2,309千円

(7)人権学習の推進

①人権学習の推進

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
人権・同和教育事業(人権啓発推進大会)(生涯学習課・各支所教育課)	人権週間(12月4日～10日)の期間中に行う人権啓発事業の一つとして、市民の意識高揚を図る。	人権啓発講演会等を行う。 ・主催 市・市教委・市人権啓発推進協議会 ・期日 12月上旬 ・参加料 無料 22年度当初予算額～400千円 【事業の効果】講演会の開催により、参加者の人権意識の高揚が図られる。 【成果指標】大会参加者の対前年比5%増を目指す。	人権啓発講演会を実施し、市民意識の高揚を図ることができた。 人権啓発推進大会(啓発標語の表彰式を兼ねる) ・主催 都城島津家発祥の地協議会 ・日時 12月4日(土) ・場所 中央公民館大集會室 ・講師:NPO法人子ども虐待防止みよさの会 会長 甲斐 英幸氏 ・演題 子どもの人権 子どもへの発達と育児支援 ・参加料 無料(150名参加) ・H22年度決算額～323千円

②人権啓発活動の推進

事業名(担当課)	目的	計画内容	点検・評価
<p>人権・同和教育事業(人権啓発等集合の発行) (生涯学習課・各支所教育課)</p>	<p>さまざまな人権意識について正しい理解と認識を深めるための人権啓発資料を作成し、人権意識の高揚を図る。また、各世帯へ配布することで、家庭内で人権問題について考える契機とする。</p>	<p>「人権啓発特集号」を作成し、人権週間に合わせて市内各世帯に配布する。 ・発行者 市人権啓発推進協議会 ・発行日 12月1日発行 ・部数 52,500部 22年度当初予算額～ 1,930千円 【事業の効果】 特集号の作成配布により、人権問題や人権週間の認知度を高めることができ、市民の人権意識の高揚が図られる 【成果指標】 広報都城12月の配布方式に合わせて、特集号を全戸に届ける。</p>	<p>5 「人権啓発特集号」を作成し、人権週間に合わせて市内各世帯に配布した。 ・発行者 市人権啓発推進協議会 ・発行日 12月1日発行 ・部数 52,500部(各戸配布や市庁舎案内等で配布) ・内容 様々な人権課題・女性・子ども・高齢者・障がい者・同和問題 外国人の人権、インターネットによる人権侵害等 ・H22年度決算額～ 772千円</p>
<p>人権・同和教育事業(人権啓発活動の充実) (生涯学習課・各支所教育課)</p>	<p>人権に関する映画祭や標語募集等を通して、住民の人権意識の高揚を図る。</p>	<p>市人権啓発推進協議会との共催により、各種啓発行事を実施する。 ・夏休みふれあい映画祭 期日 7月 会場 総合文化ホール 参加料 無料 ・権啓発標語の募集 募集 7月～8月 表彰 12月(推進大会) ・いきいきふれあいレレレ啓発展 期日 9月 懸垂幕の掲示(市庁舎等) ・ハロー市役所元氣講座を活用した人権講話の実施 ・啓発ビデオの活用、奨励 22年度当初予算額～ 308千円ほか 【事業の効果】 応募やイベント等への参加により人権意識の高揚が図られる。 【成果指標】 広報等の手段を多く用い、応募者、参加者の5%増を目指す。</p>	<p>5 市人権啓発推進協議会との共催により、各種啓発行事を実施し、市民の人権に対する意識の高揚を図ることができた。 ただし、「夏休みふれあい映画祭」については、口蹄疫の影響により中止となった。 ・夏休みふれあい映画祭 ※口蹄疫のため中止 ・人権啓発標語の募集 募集 7月～8月 応募総数 3,725作品 表彰 12月4日(推進大会) ・いきいきふれあいレレレ啓発展 期日 9月8日～17日 会場 市役所西館1階市民サロン ・懸垂幕の掲示(市庁舎等)8月1日～31日 12月1日～10日 ・啓発ビデオの活用、奨励(新規購入1本、合計24本) 22年度決算額～ 308千円</p>

平成23年度 都城市教育委員会の自己点検・評価シート

○自己評価のまとめ

平成22年度分の自己点検・評価シート様式を実効的な評価ができるものにするため、「教育委員会の会議の運営等」と「その他教育委員の活動」に修正しました。教育委員会の会議の運営等及びその他教育委員の活動状況実績に対する全体的な点検・評価を各教育委員が行いました。

教育委員が学校の現況を把握するために積極的に学校訪問を行い、さらに各種教育委員研修に積極的に参加し、自己研鑽に努めました。また、教育委員会の開催日や教育委員会毎の会議録をホームページで公表しました。

「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」については、事務事業（平成22年度～平成24年度）の事前評価により適と採択され、かつ平成22年度当初予算に計上された90項目の事務事業に対する実績、評価及び課題等を行い、その達成度を基準に5段階評価を行いました。その結果、平均4.7という評価となり、概ね計画通りに執行しています。

○外部評価委員の意見

黒木哲徳 南九州大学教授

濱田英介 都城工業高等専門学校教授

【会議開催等日程】

平成23年10月13日（木） 外部評価委員会第1回会議開催。（委員に選任通知書交付）

平成23年11月中旬～12月中旬 自己点検評価シートについて、メールで委員の意見を聴取

平成24年1月23日（月） 外部評価委員会第2回会議開催（自己・点検評価の委員の意見集約）

平成24年1月下旬～2月上旬 自己・点検評価報告書の委員の最終意見をメールで取りまとめ。

シート	項目名	意見
その1	教育委員会の活動状況（全体的）	<p>【黒木委員】</p> <p>①自己点検・評価シートの改善がなされ、委員会の具体的な状況がわかり、可視化が進んだ点は大いに評価できます。</p> <p>②教育[委員の活動についても参加行事や研修会の名称が明記されたのは評価できます。</p> <p>【濱田委員】</p> <p>①毎度思いますが、市管内の児童から高齢者に至るまで、これらの人々に対応した事業や市の文化の保存に関する事業など実に多種多様の事業を実施されており、敬服いたします。</p> <p>②学校教員へのパソコンの配布と校内LANの整備、教員のメンタルヘルス等、教える側の環境整備・負担軽減への十分な配慮も期待します。</p>
(1)	教育委員会の会議の運営等	<p>【黒木委員】</p> <p>おおむね良好です。運営に関する意見で気になったのは、近い将来にペーパーレスにする方向の提案です。すべての人がメールのやり取りが得意とは限らないので、もう少し慎重な検討が必要ではないでしょうか。</p>

		<p><b>【濱田委員】</b></p> <p>①前年度に対し、課題や提言等が述べられ、会議運営の改善点が明示されていると言えます。同じような内容の点検評価や提言がありました。整理されたものに改善されました。</p> <p>②当初、表記方法に統一性が必要と思ひ改善を提言しましたが、項目立てすることにより、何が問題かわかりやすくなりました。</p> <p>③運営の内容につきましては、良好と思います。</p>
(2)	その他教育委員の活動	<p><b>【黒木委員】</b></p> <p>おおむね良好です。これだけの行事に対応するだけでも大変だと考えます。教育委員の自己・点検評価の内容が来年度は改善されることを期待します。</p> <p><b>【濱田委員】</b></p> <p>①“改善すべき点”が“要望”という形で表記されていると思います。これが大事で、次年度の課題として意識され、改善に繋がります。</p> <p>②項目を立て、各意見を整理されたことにより、課題が明確になりつつあります。</p> <p>③曖昧な表現が若干見受けられます。例えば、【行事への参加について】の項では、“市民の声に耳をかたむけていきたいと考えている”とありますが“市民の声に耳を傾けていく”とするべきではないでしょうか？また、“申し訳なく思っている”という表現があり、その気持ちはわかりますが、弁解と受け取られかねません。</p> <p>④活動の内容につきましては、良好と思います。</p>
その2	教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	<p><b>【黒木委員】</b></p> <p>それぞれの活動がよくやられていると思います。</p> <p>今後、次のような改善をしていただくと評価がやりやすくなると思います。</p> <p>①多岐に渡る事業なので、これを同じ指標で評価するのは困難です。</p> <p>従って、目標指数によって評価する項目、内容の進展によって評価する項目などのそれぞれの事業の性質や内容に応じた評価の在り方を考えていただくことが今後の課題かと思われます。</p> <p><b>【濱田委員】</b></p> <p>①多くの事業の成果指標に数値化や明確な成果指標設定の努力が認められますが、一部にその事業の成果が何なのか不明確なものもあります。成果指標を数値化できない場合があるのは理解できます。しかし、この自己点検評価に求められる成果とは単年度毎の成果であり、予算を使用する以上、その年度内に達成すべきこと（成果）が必ずあるはずで、前年度に対してどうあるべきかというのも成果指標です。</p> <p>②予算と決算が明記されており、事業の規模や（予算面からみた）進捗が（第3者に）分かりやすくなったと言えます。</p> <p>③期間の決められていない事業、慣例的に行われている取組みについては、長くとも5年間隔で、十分時間をかけて点検することが必要です。今後の課題と言えます。</p>

都城市教育委員会

教育総務課